

国際学部

FACULTY OF INTERNATIONAL STUDIES

2021

履修要項



大阪経済法科大学

OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS AND LAW

国際学部

FACULTY OF INTERNATIONAL STUDIES

2021

履修要項



大阪経済法科大学

目次

建学の理念・本学の教育目的……………4
学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施の方針（CP）

I 国際学部国際学科教育課程

❖卒業要件……………8
❖国際学部履修系統図……………14
❖国際学部開設科目一覧表……………18
❖国際学部の人材養成理念・目的……………25
（1）養成する人材像 （2）学生が修得すべき能力
❖国際学部の教育課程の特色……………28
（1）学際的学修 （2）異文化理解の醸成 （3）実践的なコミュニケーション能力の育成
（4）国際教育プログラム （5）演習教育 （6）2つのコース （7）国際色豊かな教育空間
（8）特別プログラムと資格取得支援
❖国際学部教育課程の編成の考え方……………30
（1）教育課程編成の基本方針 （2）教育課程の科目区分及び科目構成
❖国際学部の1年次教育……………36
（1）1年次教育プログラム科目群 （2）1年次教育プログラムの位置づけ （3）授業の運営
（4）1年次の必修・選択必修・履修指定・履修推奨科目
❖国際学部の2年次教育……………38
❖国際学部の3,4年次教育……………40
❖コース制と履修モデル……………42
（1）国際コミュニケーションコース （2）グローバルキャリアコース
（3）国際コミュニケーションコース履修モデル （4）グローバルキャリアコース履修モデル
❖国際学部の英語教育……………48
（1）英語教育の考え方 （2）到達度指標（TOEIC®）
❖留学生の皆さんへ……………50
❖国際教育プログラム……………53
（1）海外語学研修 （2）フィールド・プロジェクトⅠ・Ⅱ （3）英語圏1セメスター留学
（4）交換留学 （5）新型コロナウイルス感染症下における国際教育プログラムの実施について
❖インターンシップ・海外インターンシップ……………56
（1）インターンシップ （2）海外インターンシップ

II キャリア形成支援プログラム

キャリア形成支援プログラム……………58
（1）キャリア形成のための科目 （2）キャリア形成支援プログラムの全体像
（3）公務員試験対策について （4）ダイバーシティプログラム
（5）国際学部特別プログラム （6）Athlete Career Program
（7）就活シリーズ講座 （8）就活実践Camp

III その他

❖資格取得を目指した学習のために……………66
❖編入生の皆さんへ……………70
（1）学修における注意点 （2）履修制限単位 （3）卒業要件（編入学生用）

資料

大阪経済法科大学学則……………74

建学の理念・本学の教育目的

（１）建学の理念

「経済と法律、二つの学問の修得による人格の形成」
「実学の精神を持った人材の育成」
「人権の伸長と国際平和への貢献」

建学の理念は、創立者金澤尚淑博士の信念に基づくものです。
金澤博士は、経済学と法学の両方を学び、その後、実業界に身を投じ、経済と経営に通暁するにつれ、法律に対する精確な認識が不可欠なことをあらためて確信しました。
金澤博士は、知識基盤社会の到来を予測して、学ぶ意欲を持ち、そのための努力を惜しまない者すべてに門戸が開かれた高等教育の実現に向けて尽力し、1971年1月27日、学校法人大阪経済法律学園を設立し、同年4月、大阪府八尾市に経済学部と法学部の2学部からなる大阪経済法科大学を開設しました。
本学園はグローバル化する現代社会の中で、教育研究を通じた人権の伸長と国際平和への貢献に力を注ぎ、海外の大学・研究機関と幅広いネットワークを築き上げてきました。2016年4月、これらの経験をふまえて、新たに国際学部を設置しました。また、2019年4月には経済学部経営学科を改組して経営学部を設置し、4学部を擁する社会科学系総合大学へと発展しています。
本学園は、建学の理念を、「学校法人大阪経済法律学園寄附行為」前文に、次のように定めています。

創立者金澤尚淑博士は、「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる。」との信念に従い、万人に開かれた高等教育の実現を目指し、幾多の苦難を乗り越えて、一九七一年（昭和四十六年）に学校法人大阪経済法律学園を設立した。本学園は、創立者の建学の理念に基づき、広く知識を教授し、実践の中から真理を探究する実学の精神を持った人材の育成を行うとともに、教育研究を通じて人権の伸長と国際平和に貢献することを使命とする。

（２）本学の教育目的

本学は建学の理念に基づき、大学の使命及び目的に関連して、「大阪経済法科大学学則」第1条に次のように定めています。

本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。

本学は、この教育目的にそって、学生の皆さんに対し専門教育並びに教養教育を行っています。経済学部経済学科は、「経済学を中心とする幅広い専門知識とその実践的応用能力を有し、内外の社会的状況を考慮しつつ、市民社会や企業の直面する諸問題を理解し、倫理と公共性と責任感を持って、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」（学則第2条第2項（1））、経営学部経営学科は、「経営学を中心とする幅広い専門知識と多様な応用能力を修得し、技術革新やグローバル化の進展によって産業や社会システムが変化する中で、実践的な課題解決力を備え、現代ビジネスの諸課題に主体的・創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」（学則第2条第2項（2））、法学部法律学科は、「基礎的な法学教育を土台として、法と政治についての高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。」（同第2条第2項（3））、国際学部国際学科は、「異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成を目指して、教育研究を行う」（同第2条第2項（4））こととしています。

本学の使命及び目的は、学生の皆さんが本学での学生生活を通じて専門知識と幅広い教養及び就業力を身につけ、グローバル化・情報化が進む社会において、自らの能力と個性を発揮して活躍することができるように、教育と環境を提供することです。

学位授与の方針（DP）、 教育課程の編成・実施の方針（CP）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、CP）については、中央教育審議会大学分科会大学教育部会が平成28年3月31日に発表した『『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）及び『入学受入れの方針』（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』において、以下のように説明されています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、CP）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

これらの方針を策定する意義として、学生の皆さんにとっては、自らの学ぶ教育課程の目標や構造などを十分に理解した上で、個々の学修活動に自覚的に取り組むことで、学問に主体的に向き合い、より密度の濃い学修成果を得ることが可能となります。
これらの方針を念頭において、本学における学修を進め、希望進路を実現することを期待しています。

1 国際学部国際学科の学位授与の方針（DP）

国際学部国際学科は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の育成を目指している。国際性と学際性とを特質とする学士課程教育によって、以下の能力を身につけている学生に対し、「学士（国際学）」の学位を授与する。

1. グローバル化する現代社会の諸問題を理解し、理論と知識をもってその解決に向けて自ら考え、取り組む姿勢を身につけている。
2. 英語を中心として、国際コミュニケーションに必要なコミュニケーションのツールとスキルを活用する能力を修得している。
3. 国際社会の多様性を尊重しつつ、同時に自己のアイデンティティをもって行動することができる能力を修得している。
4. 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協力し、社会の一員として活躍できる能力と生涯にわたる就業力を身につけている。

2 国際学部国際学科の教育課程の編成・実施の方針（CP）

2.1. コース制による学修と卒業要件、学修・留学・進路支援制度

- (1) 将来の進路に対応した2つのコースによる学修
 - 1) 国際コミュニケーションコース
 - 1「国際交流・公共サービスモデル」
 - 2「観光ホスピタリティモデル」
 - 3「英語専門職モデル」
 - 2) グローバルキャリアコース
 - 1「民間企業・国際業務マネジメントモデル」
 - 2「国際商取引モデル」
 - 3「国際協力モデル」
- (2) 卒業要件と必修科目の設定
 - 1) 卒業要件：合計124単位
 - 2) 必修科目
 - 1年次：Intensive English L/S I・II、Intensive English W/R I・II、
海外語学研修あるいはフィールド・プロジェクトI、基礎演習A・B
 - 2年次：Advanced English L/S I・II、Advanced English W/R I・II
- (3) 4年間を通したアドバイザー制度

I 国 際 学 部 国 教 育 課 科 程

2.2. 基礎から専門発展科目へつながる幅広い人文・社会科学等を通じた学際的学修

- (1) 異文化理解の基盤となる日本の文化、歴史、社会ならびに世界各国・地域の文化、歴史と、現代の社会事情に関する幅広い科目の設置
- (2) 1年次の専門基礎科目の学修後、3分野（国際理解、コミュニケーション、国際ビジネス関連）の専門発展科目群の配置
- (3) 各分野での学際的・複合的な学修
- (4) 情報化された現代社会を理解するための科目、コミュニケーションの理論的な理解のための科目の配置
- (5) プレゼンテーション、ディベート、ビジネス交渉等を少人数で学ぶ科目の配置

2.3. 実践的なコミュニケーション能力の育成

- (1) 1・2年次は、習熟度別20人以下の少人数クラス
- (2) チームティーチングで英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスよい教育
- (3) 3年次以降は、CBLT（Content-Based Language Teaching）で、英語による専門講義科目や演習科目の設置
- (4) 1年次の早期からの多彩な留学・海外体験実施による英語運用能力の向上
- (5) TOEIC[®]やTOEFL[®]等の英語能力試験の対策科目の配置

2.4. 1年次からの海外体験、多彩な留学プログラム等の国際教育プログラム

- (1) 1年次に「海外語学研修」または海外での「フィールド・プロジェクトⅠ」への参加（必修）
- (2) 段階的にステップアップできる国際教育プログラムの提供、複数回の海外体験の積極的な推奨

2.5. 少人数・双方向型、実践型教育

- (1) 1年次から4年間を通して20人を定員とした少人数・双方向型教育の演習の開講
- (2) 各専門授業における双方向型教育の実施
- (3) 留学・海外体験、専門演習におけるPBL（Project-Based Learning）等の実践型教育の実施

2.6. 異文化理解と多文化共生を育む国際色豊かな教育空間

- (1) キャンパス内におけるネイティブ教員や多様な国・地域出身の留学生との日常的な交流の積極的な推進
- (2) 豊かな国際感覚を育むキャンパスライフの創出

2.7. 体系的なキャリア教育と特別プログラム・資格取得支援

- (1) 正課での4年間にわたる体系的なキャリア教育の実施
- (2) 日本語文章表現能力、コミュニケーション技法、ICTの活用能力などの汎用的技能の養成
- (3) 正課外での特別プログラムの実施、資格取得の積極的なサポート
- (4) 海外インターンシップによる、諸外国での就労体験

2021年度入学生

(1) 卒業要件

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	－	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合 計		124単位

(2) 共通教育科目

○卒業するには、共通教育科目より、14単位以上修得すること。

(3) 専門教育科目

○卒業するには、専門教育科目より、90単位以上修得すること。ただし、次の各要件を満たすこと。

専門基礎科目

○専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

必修科目(4科目8単位必修)	選択必修 (12単位以上)			
Intensive English W/R I	異文化理解Ⅰ・Ⅱ	日本史概論Ⅰ・Ⅱ	世界史概論Ⅰ・Ⅱ	国際政治学Ⅰ
Intensive English W/R II	国際社会と法	市民社会と法	日本と国際法	Exam Prep.Ⅰ・Ⅱ
Intensive English L/S I	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	メディアリテラシー	コミュニケーション論	ことばと文化
Intensive English L/S II	日本経済入門	世界経済入門	経営学概論	国際ビジネス概論

=20単位以上

専門発展科目(国際理解科目群)

○専門発展科目の国際理解科目群から10単位以上修得すること。

選択必修 (10単位以上)
日本文化論、比較文化論、多文化共生社会論、Japanese Culture、Japanese History、Japanese Society、Japanese Geography、Japanese Law and Society、Comparative Culture、Comparative Legal System、ジェンダー論、宗教学、社会思想史、アジア史、アメリカ史、アメリカ外交史、ヨーロッパ史、現代中国事情、現代東南アジア事情、現代オセアニア事情、現代アメリカ事情、現代ヨーロッパ事情、現代中東事情、Regional Studies (Asia)、Regional Studies (Oceania)、Regional Studies (America)、Regional Studies (Europe)、国際政治学Ⅱ、国際関係論、比較政治学、対外政策論、安全保障と国際法、核問題と安全保障、国際紛争の平和的解決と国際法、International Relations and Law(Introduction to International Law)、国際協力法、国際人権法、国際社会と人の移動、International Migration、Multiculturalism in Modern Society、異文化適応論、政治地理学、NPO・NGO論、地方自治と国際協力、国際機構論、比較税制論、社会保障の国際比較、都市計画の国際比較、資源・エネルギー論

コースにおける必修科目・選択必修科目

○次の各コースの要件を満たすこと。

●国際コミュニケーションコース

コミュニケーション科目群(30単位以上)	○必修科目※(4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修(22単位以上) Academic WritingⅠ・Ⅱ、Business CommunicationⅠ・Ⅱ、Exam Prep.Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive EnglishⅠ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global IssuesⅠ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
----------------------	--	---

国際ビジネス関連科目群(10単位以上)	○選択必修(10単位以上) 日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法(契約と決済)、国際取引と法(紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論
---------------------	---

●グローバルキャリアコース

コミュニケーション科目群(10単位以上)	○必修科目※(4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修(2単位以上) Academic WritingⅠ・Ⅱ、Business CommunicationⅠ・Ⅱ、Exam Prep.Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive EnglishⅠ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global IssuesⅠ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
----------------------	--	--

国際ビジネス関連科目群(30単位以上)	○選択必修(30単位以上) 日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法(契約と決済)、国際取引と法(紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論
---------------------	---

※ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

演習科目

○演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。

基礎演習A	基礎演習B
-------	-------

留学・体験科目

○留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。

海外語学研修	または、	フィールド・プロジェクトI
--------	------	---------------

(4) その他共通教育科目又は専門教育科目

○卒業するには、その他(共通教育科目及び専門教育科目)より20単位以上修得すること。

共通教育科目(14単位)	+	専門教育科目(90単位)	+	その他共通教育科目又は専門教育科目(20単位)	=124単位
--------------	---	--------------	---	-------------------------	--------

2020年度入学生

(1) 卒業要件

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	－	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目 又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合 計		124単位

(2) 共通教育科目

○卒業するには、共通教育科目より、14単位以上修得すること。

(3) 専門教育科目

○卒業するには、専門教育科目より、90単位以上修得すること。ただし、次の各要件を満たすこと。

専門基礎科目

○専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。

必修科目(4科目8単位必修)	選択必修 (12単位以上)			
Intensive English W/R I	異文化理解 I・II	日本史概論 I・II	世界史概論 I・II	国際政治学 I
Intensive English W/R II	国際社会と法	市民社会と法	日本と国際法	Exam Prep. I・II
Intensive English L/S I	情報リテラシー I・II	メディアリテラシー	コミュニケーション論	ことばと文化
Intensive English L/S II	日本経済入門	世界経済入門	経営学概論	国際ビジネス概論

=20単位以上

専門発展科目(国際理解科目群)

○専門発展科目の国際理解科目群から10単位以上修得すること。

選択必修 (10単位以上)
日本文化論、比較文化論、多文化共生社会論、Japanese Culture、Japanese History、Japanese Society、Japanese Geography、Japanese Law and Society、Comparative Culture、Comparative Legal System、ジェンダー論、宗教学、社会思想史、アジア史、アメリカ史、アメリカ外交史、ヨーロッパ史、現代中国事情、現代東南アジア事情、現代オセアニア事情、現代アメリカ事情、現代ヨーロッパ事情、現代中東事情、Regional Studies (Asia)、Regional Studies (Oceania)、Regional Studies (America)、Regional Studies (Europe)、国際政治学Ⅱ、国際関係論、比較政治学、対外政策論、安全保障と国際法、核問題と安全保障、国際紛争の平和的解決と国際法、International Relations and Law(Introduction to International Law)、国際協力法、国際人権法、国際社会と人の移動、International Migration、Multiculturalism in Modern Society、異文化適応論、政治地理学、NPO・NGO論、地方自治と国際協力、国際機構論、比較税制論、社会保障の国際比較、都市計画の国際比較、資源・エネルギー論

コースにおける必修科目・選択必修科目

○次の各コースの要件を満たすこと。

●国際コミュニケーションコース

コミュニケーション科目群 (30単位以上)	○必修科目 (4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修 (22単位以上) Academic Writing I・II、Business Communication I・II、Exam Prep. III・IV・V・VI、Comprehensive English I・II、Current Affairs、Readings for Global Issues I・II、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現 I・II、日本語コミュニケーション技法 I・II、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群 (10単位以上)	○選択必修 (10単位以上) 日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法 (契約と決済)、国際取引と法 (紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

●グローバルキャリアコース

コミュニケーション科目群 (10単位以上)	○必修科目 (4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修 (2単位以上) Academic Writing I・II、Business Communication I・II、Exam Prep. III・IV・V・VI、Comprehensive English I・II、Current Affairs、Readings for Global Issues I・II、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現 I・II、日本語コミュニケーション技法 I・II、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群 (30単位以上)	○選択必修 (30単位以上) 日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法 (契約と決済)、国際取引と法 (紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

演習科目

○演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。

基礎演習A	基礎演習B
-------	-------

留学・体験科目

○留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。

海外語学研修	または、	フィールド・プロジェクトI
--------	------	---------------

(4) その他共通教育科目又は専門教育科目

○卒業するには、その他(共通教育科目及び専門教育科目)より20単位以上修得すること。

共通教育科目 (14単位)	+	専門教育科目 (90単位)	+	その他共通教育科目又は専門教育科目 (20単位)	=124単位
------------------	---	------------------	---	-----------------------------	--------

2019年度以前入学生

(1) 卒業要件

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	－	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトⅠ」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目 又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合 計		124単位

(2) 共通教育科目

○卒業するには、共通教育科目より、14単位以上修得すること。

(3) 専門教育科目

○卒業するには、専門教育科目より、90単位以上修得すること。ただし、次の各要件を満たすこと。

専門基礎科目

○専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。

必修科目(4科目8単位必修)	選択必修 (12単位以上)			
Intensive English W/R I	異文化理解Ⅰ・Ⅱ	日本史概論Ⅰ・Ⅱ	世界史概論Ⅰ・Ⅱ	国際政治学Ⅰ
Intensive English W/R II	国際社会と法	市民社会と法	日本と国際法	Exam Prep.Ⅰ・Ⅱ
Intensive English L/S I	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	メディアリテラシー	コミュニケーション論	ミクロ経済学Ⅰ
Intensive English L/S II	マクロ経済学Ⅰ	日本経済入門	世界経済入門	経営学概論
	国際ビジネス概論			

※「異文化理解」については、「異文化理解Ⅰ」に名称変更。

専門発展科目(国際理解科目群)

○専門発展科目の国際理解科目群から10単位以上修得すること。

選択必修 (10単位以上)
日本文化論、比較文化論、多文化共生社会論、Japanese Culture、Japanese History、Japanese Society、Japanese Geography、Japanese Law and Society、Comparative Culture、Comparative Legal System、ジェンダー論、宗教学、社会思想史、アジア史、アメリカ史、アメリカ外交史、ヨーロッパ史、現代中国事情、現代東南アジア事情、現代オセアニア事情、現代アメリカ事情、現代ヨーロッパ事情、現代中東事情、Regional Studies (Asia)、Regional Studies (Oceania)、Regional Studies (America)、Regional Studies (Europe)、国際政治学Ⅱ、国際関係論、比較政治学、対外政策論、安全保障と国際法、核問題と安全保障、国際紛争の平和的解決と国際法、International Relations and Law(Introduction to International Law)、国際協力法、国際人権法、国際社会と人の移動、International Migration、Multiculturalism in Modern Society、異文化適応論、政治地理学、NPO・NGO論、地方自治と国際協力、国際機構論、比較税制論、社会保障の国際比較、都市計画の国際比較、資源・エネルギー論

コースにおける必修科目・選択必修科目

○次の各コースの要件を満たすこと。

●国際コミュニケーションコース

コミュニケーション科目群 (30単位以上)	○必修科目 (4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修 (22単位以上) Academic Writing Ⅰ・Ⅱ、Business Communication Ⅰ・Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global Issues Ⅰ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、ことばと文化、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群 (10単位以上)	○選択必修 (10単位以上) ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法 (契約と決済)、国際取引と法 (紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

●グローバルキャリアコース

コミュニケーション科目群 (10単位以上)	○必修科目 (4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修 (2単位以上) Academic Writing Ⅰ・Ⅱ、Business Communication Ⅰ・Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global Issues Ⅰ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、ことばと文化、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群 (30単位以上)	○選択必修 (30単位以上) ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、日本経済論、世界経済論、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法 (契約と決済)、国際取引と法 (紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

演習科目

○演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。

基礎演習A	基礎演習B
-------	-------

留学・体験科目

○留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトⅠ」のいずれか1科目2単位を修得すること。

海外語学研修	または、	フィールド・プロジェクトⅠ
--------	------	---------------

(4) その他共通教育科目又は専門教育科目

○卒業するには、その他(共通教育科目及び専門教育科目)より20単位以上修得すること。

共通教育科目 (14単位)	+	専門教育科目 (90単位)	+	その他共通教育科目又は専門教育科目 (20単位)	=124単位
------------------	---	------------------	---	-----------------------------	--------

①国際コミュニケーションコース 履修系統図

		1 年次		2 年次				3 年次		4 年次							
	科目区分別の学修目標	第1セメスター	夏季	第2セメスター	第3セメスター	夏季	第4セメスター		第5セメスター	夏季	第6セメスター	第7セメスター	夏季	第8セメスター			
演習関連	❶ 複数国・複数回の多様な海外体験・留学を基に、異なる価値観や文化的背景をもつ他者を理解し、協働することができる。 ❷ 修得した知識を主体的に応用し、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を身につけ、それぞれの課題に取り組むことができる。	基礎演習 A (必修)		基礎演習 B (必修)	コース選択 専門演習Ⅰ A		専門演習Ⅰ B		専門演習Ⅱ A		専門演習Ⅱ B	専門演習Ⅲ A		専門演習Ⅲ B			
必修 外国語	❶ 国際コミュニケーションに必要な英語のコミュニケーションスキルを身につける。 ❷ 実践に役立つスキルの修得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを駆使することができる。	Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ (※両科目必修) ※1	→	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ (※両科目必修) ※1	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ (※両科目必修) ※2	→	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ (※両科目必修) ※2										
専門基礎 科目	❶ 専門的な学修をするにあたって必要な基礎的知識を身につける。	※第1～4セメスターのあいだに履修することが望ましい：12単位以上選択 【国際理解科目関連】 異文化理解Ⅰ→異文化理解Ⅱ 日本史概論Ⅰ→日本史概論Ⅱ 市民社会と法 世界史概論Ⅰ→世界史概論Ⅱ 国際政治学Ⅰ 【コミュニケーション科目関連】 情報リテラシーⅠ→情報リテラシーⅡ コミュニケーション論→ことばと文化 Exam Prep.Ⅰ→Exam Prep.Ⅱ 【国際ビジネス科目関連】 日本経済入門→世界経済入門															
専門発展 科目	❶ 発展学修により「専門基礎科目」で修得した知識を拡充する。 ❷ 学際的かつ複合的な専門学修により「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」を身につける。				※第3～8セメスターのあいだに履修：合計42単位以上選択 【国際理解科目群】(※10単位以上選択) 日本文化論 → 比較文化論 Japanese History Japanese Culture Japanese Geography 国際関係論 NPO・NGO論 国際社会と人の移動 地方自治と国際協力 【コミュニケーション科目群】(※22単位以上選択) Exam Prep.Ⅲ → Exam Prep.Ⅳ 日本語文章表現Ⅰ→日本語文章表現Ⅱ 異文化コミュニケーション メディア論→グローバル化とメディア 情報セキュリティ論 【国際ビジネス関連科目群】(※10単位以上選択) <経済系科目> 経済政策概論 <経営系科目> 国際経営論 観光概論 → 観光資源論 多文化共生社会論 現代中国事情 → Regional Studies (Asia) 現代アメリカ事情 都市計画の国際比較 Academic WritingⅠ→Academic WritingⅡ → Comprehensive EnglishⅠ→Comprehensive EnglishⅡ Business CommunicationⅠ→Business CommunicationⅡ → Current Affairs Exam Prep.Ⅴ → Exam Prep.Ⅵ 翻訳実践 観光英語 プレゼンテーション実践 → ディベート実践 Japanese Economy 中国経済論 Contemporary Economic Issues 国際観光論 → Tourism and World Heritages ホスピタリティ論 → 航空実務												
留学・ 体験科目	❶ 海外での学修や生活、種々の活動と実体験をとおして、国際理解を深め、国際性を身につける。 ❷ 言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することができる。	海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠ ※いずれか1科目2単位を選択必修															
キャリア 形成科目	❶ 自身のキャリアイメージを確立し、卒業後に必要な就業力を身につける。 ❷ グローバル人材が求められる業界・業種の現状と課題を考察し、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定することができる。	国際キャリア開発A		国際キャリア開発B	国際キャリアデザイン演習A インター ナショナル		国際キャリアデザイン演習B		国際キャリア演習A		国際キャリア演習B						
共通教育 科目	❶ 多角的な視野を持つための幅広い教養を身につける。	文章表現入門、地域文化論、地理学、心理学、日本国憲法、現代社会学、現代社会とビジネス、共通教育科目から、日本近現代史、社会学、言語学、環境と社会、地球と環境、人権の諸問題、海運と港湾、ビジネスリテラシー、環境と生態、環境と経営14単位以上の修得が卒業にとって必要である。															
学修目標		1 年次の学修目標 ▷ 世界に対して関心を持ち、異文化への気づきを得る。 ▷ 国際理解の基礎的要素に関する知識を修得する。 ▷ 読み書きスキル、ICTスキル、分析しまとめ上げる力等の汎用的技能を身につける。 ▷ 外国語の基礎を定着させる。 ▷ 専門の基礎知識を修得する。 ▷ キャリアに関する意識を醸成させ、将来の希望進路に適したコース内容を理解する。				2 年次の学修目標(学部共通) ▷ 国際社会への興味関心を深める。 ▷ 各科目群の専門的知識を拡充させる。 ▷ 海外体験や留学を通じて、主体性を身につける。 ▷ キャリアに関する意識を高める。 ▷ インターンシップに参加する。				3 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を意識した各種情報を獲得する。 ▷ 海外体験や留学を通じて、課題解決能力を高める。 ▷ キャリアに関する意識を具体化し行動する。 ▷ 国際社会に関する専門知識を拡充する。 ▷ 英語による実践的コミュニケーション能力を養成する。				4 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を推進させ、卒業レポート等を完成させる。 ▷ 社会人として必要な心得を修得する。 ▷ 進路に関する専門知識を拡充させる。			
		2 年次の学修目標(国際コミュニケーションコース) ▷ コミュニケーション能力を高める。				3 年次の学修目標(国際コミュニケーションコース) ▷ 英語での専門科目の学修を通じて、英語の能力の向上と英文のリソースから必要な情報を収集できるようにする。				4 年次の学修目標(国際コミュニケーションコース) ▷ 国際コミュニケーション関連の研究発表を行う。							

※1 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

※2 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

②グローバルキャリアコース 履修系統図

		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次														
	科目区分別の学修目標	第1セメスター	夏季	第2セメスター	第3セメスター	夏季	第4セメスター	第5セメスター	夏季	第6セメスター	第7セメスター	夏季	第8セメスター									
演習関連	❶ 複数国・複数回の多様な海外体験・留学を基に、異なる価値観や文化的背景をもつ他者を理解し、協働することができる。 ❷ 修得した知識を主体的に応用し、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を身につけ、それぞれの課題に取り組むことができる。	基礎演習 A (必修)		基礎演習 B (必修)	コース選択 専門演習Ⅰ A		専門演習Ⅰ B	専門演習Ⅱ A		専門演習Ⅱ B	専門演習Ⅲ A		専門演習Ⅲ B									
必修 外国語	❶ 国際コミュニケーションに必要な英語のコミュニケーションスキルを身につける。 ❷ 実践に役立つスキルの修得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを駆使することができる。	Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ (※両科目必修) ※1	→	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ (※両科目必修) ※1	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ (※両科目必修) ※2	→	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ (※両科目必修) ※2															
専門基礎 科目	❶ 専門的な学修をするにあたって必要な基礎的知識を身につける。	※第1～4セメスターのあいだに履修することが望ましい：12単位以上選択 【国際理解科目関連】 異文化理解Ⅰ→異文化理解Ⅱ 日本史概論Ⅰ→日本史概論Ⅱ 国際社会と法 世界史概論Ⅰ→世界史概論Ⅱ 国際政治学Ⅰ 【コミュニケーション科目関連】 情報リテラシーⅠ→情報リテラシーⅡ コミュニケーション論→ことばと文化 Exam Prep.Ⅰ→Exam Prep.Ⅱ 【国際ビジネス科目関連】 <経済系>日本経済入門→世界経済入門 <経営系>経営学概論→国際ビジネス概論																				
専門発展 科目	❶ 発展学修により「専門基礎科目」で修得した知識を拡充する。 ❷ 学際的かつ複合的な専門学修により「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」を身につける。	※第3～8セメスターのあいだに履修：合計42単位以上選択 【国際理解科目群】(※10単位以上選択) 比較文化論 宗教学 国際関係論、NPO・NGO論、 比較税制論、比較政治学、対外政策論 【コミュニケーション科目群】(※2単位以上選択) Exam Prep.Ⅲ → Exam Prep.Ⅳ 日本語文章表現Ⅰ → 日本語文章表現Ⅱ 【国際ビジネス関連科目群】(※30単位以上選択) <経済系科目> 日本経済論 世界経済論 比較経済論 →国際経済学概論 国際金融概論 <経営系科目> 国際経営論 経営管理概論 → 経営戦略論 会計学概論 マーケティング論→流通システム論 現代アメリカ事情 現代中国事情 現代中東事情 現代東南アジア事情 → Regional Studies (Asia) 国際協力法 → 国際機構論 Business CommunicationⅠ→Business CommunicationⅡ プレゼンテーション実践→ディベート実践 ビジネスアプリケーション Japanese Economy 中国経済論 東南アジア経済論 アメリカ経済論 Contemporary Economic Issues 外国為替論 → 貿易金融論 貿易商務論 → Business Management 医療ビジネス論 経営情報概論 → 国際会計論 税法 → 国際取引と法 (紛争処理) 国際取引と法 (契約と決済) → 国際取引と法 (紛争処理)																				
留学・ 体験科目	❶ 海外での学修や生活、種々の活動と実体験をとおして、国際理解を深め、国際性を身につける。 ❷ 言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することができる。	海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠ ※いずれか1科目2単位を選択必修																				
キャリア 形成科目	❶ 自身のキャリアイメージを確立し、卒業後に必要な就業力を身につける。 ❷ グローバル人材が求められる業界・業種の現状と課題を考察し、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定することができる。	国際キャリア開発A		国際キャリア開発B	国際キャリアデザイン演習A インター シップ		国際キャリアデザイン演習B	国際キャリア演習A		国際キャリア演習B												
共通教育 科目	❶ 多角的な視野を持つための幅広い教養を身につける。	文章表現入門、日本近現代史、心理学、現代社会とビジネス、現代社会学、 共通教育科目から、 社会学、日本近現代史、環境と経営、環境と社会、人権の諸問題、ビジネスリテラシー、海運と港湾、地球と環境 14単位以上の修得が卒業にとって必要である。																				
学修目標		1 年次の学修目標 ▷ 世界に対して関心を持ち、異文化への気づきを得る。 ▷ 国際理解の基礎的要素に関する知識を修得する。 ▷ 読み書きスキル、ICTスキル、分析しまとめ上げる力等の汎用的技能を身につける。 ▷ 外国語の基礎を定着させる。 ▷ 専門の基礎知識を修得する。 ▷ キャリアに関する意識を醸成させ、将来の希望進路に適したコース内容を理解する。			2 年次の学修目標(学部共通) ▷ 各科目群の専門的知識を拡充させる。 ▷ 海外体験や留学を通じて、主体性を身につける。 ▷ キャリアに関する意識を高める。 ▷ 国際社会への興味関心を深める。 ▷ インターンシップに参加する。			3 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を意識した各種情報を獲得する。 ▷ 海外体験や留学を通じて、課題解決能力を高める。 ▷ キャリアに関する意識を具体化し行動する。 ▷ 国際社会に関する専門知識を拡充する。 ▷ 英語による実践的コミュニケーション能力を養成する。			4 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を推進させ、卒業レポート等を完成させる。 ▷ 社会人として必要な心得を修得する。 ▷ 進路に関する専門知識を拡充させる。											
					2 年次の学修目標(グローバルキャリアコース) ▷ 企業の国際ビジネス業務に必要な基礎知識を修得する。			3 年次の学修目標(グローバルキャリアコース) ▷ 実践的・能動的な取組を通じ、課題解決能力を高める。 ▷ 国際ビジネスに関する専門科目を学修する。			4 年次の学修目標(グローバルキャリアコース) ▷ グローバルキャリア関連の研究発表を行う。											

※1 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。
※2 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

(1) 共通教育科目一覧表

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考
共通教育科目	文章表現入門	2	G1	1				
	基礎体育A	1	G1	1				
	基礎体育B	1	G1	1				
	哲学	2	G2	1	2	3	4	
	日本史	2	G2	1	2	3	4	
	日本近現代史	2	G2	1	2	3	4	
	西洋史	2	G2	1	2	3	4	
	考古学	2	G2	1	2	3	4	
	文化人類学	2	G2	1	2	3	4	
	文学	2	G2	1	2	3	4	
	言語学	2	G2	1	2	3	4	
	教育学	2	G2	1	2	3	4	
	心理学	2	G2	1	2	3	4	
	日本国憲法	2	G2	1	2	3	4	
	法学	2	G2	1	2	3	4	
	政治学	2	G2	1	2	3	4	
	経済学	2	G2	1	2	3	4	
	地理学	2	G2	1	2	3	4	
	社会学	2	G2	1	2	3	4	
	日本事情入門	2	G1	1	2	3	4	留学生科目
	現代日本事情	2	G1	1	2	3	4	留学生科目
	科学技術史	2	G2	1	2	3	4	
	化学と生活	2	G2	1	2	3	4	
	統計学Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	統計学Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	数理論理学	2	G2		2	3	4	
	生物学	2	G2	1	2	3	4	
	情報システム論	2	G2	1	2	3	4	
	ソフトウェア論	2	G2	1	2	3	4	
	ネットワーク論	2	G2	1	2	3	4	
	ワープロ実践	2	G2	1	2	3	4	
	表計算実践	2	G2	1	2	3	4	
	データベース実践	2	G2	1	2	3	4	
	デジタルプレゼンテーション	2	G2	1	2	3	4	
	ワープロ応用	2	G2		2	3	4	
	表計算応用	2	G2		2	3	4	
	プログラミング実践	2	G2		2	3	4	
	情報科学演習	2	G2		2	3	4	
	環境論	2	G2	1	2	3	4	
	環境フィールドスタディⅠ	2	G2	1	2	3	4	
	環境フィールドスタディⅡ	2	G2	1	2	3	4	
	平和学	2	G2	1	2	3	4	
	マスコミ論	2	G2	1	2	3	4	
	地域文化論	2	G2	1	2	3	4	
	芸術学	2	G2	1	2	3	4	

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考
共通教育科目	河内学	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会学	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と人権	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と教育	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と健康	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と日本語	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と科学	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会とビジネス	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と観光	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会とメディア	2	G2	1	2	3	4	
	人権の諸問題	2	G2		2	3	4	
	海運と港湾	2	G2		2	3	4	
	日本の水産業と世界の水産業	2	G2		2	3	4	
	日本の農業	2	G2		2	3	4	
	世界の農業	2	G2		2	3	4	
	地球と環境	2	G2		2	3	4	
	環境と経営	2	G2		2	3	4	
	環境と社会	2	G2		2	3	4	
	環境と海洋	2	G2		2	3	4	
	環境と生態	2	G2		2	3	4	
	環境保全論	2	G2		2	3	4	
	環境演習A	2	G2		2	3	4	
	環境演習B	2	G2		2	3	4	
	ビジネスリテラシー	2	G2		2	3	4	
	総合演習a	2	G2		2	3	4	
	総合演習b	2	G2		2	3	4	
	フランス語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	フランス語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	中国語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	中国語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	韓国語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	韓国語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	中国語総合演習A	2	G2	1	2	3	4	
	中国語総合演習B	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語総合演習A	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語総合演習B	2	G2	1	2	3	4	
	日本語総合演習A	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語総合演習B	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	中国語会話	1	G2	1	2	3	4	
	韓国語会話	1	G2	1	2	3	4	
	日本語読解	1	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語会話	1	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語表現	1	G2	1	2	3	4	留学生科目
	中国語コミュニケーション演習	4	G2		2	3	4	

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考
共通教育科目	韓国語コミュニケーション演習	4	G2		2	3	4	
	健康科学論	2	G2	1	2	3	4	
	心とからだの病理学	2	G2	1	2	3	4	
	身体運動科学	2	G2	1	2	3	4	
	スポーツ論	2	G2	1	2	3	4	
	生涯スポーツA	1	G2	1	2	3	4	
	生涯スポーツB	1	G2	1	2	3	4	
	フィットネス実習A	1	G2	1	2	3	4	
	フィットネス実習B	1	G2	1	2	3	4	
	トレーニング演習A	2	G2	1	2	3	4	
	トレーニング演習B	2	G2	1	2	3	4	
	身体管理論	2	G2	1	2	3	4	
	スポーツ指導論	2	G2	1	2	3	4	
	スポーツ管理論	2	G2	1	2	3	4	

(2) 国際学部国際学科専門教育科目一覧表

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考		
専門教育科目	専門基礎科目	異文化理解Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		異文化理解Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		日本史概論Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		日本史概論Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		世界史概論Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		世界史概論Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		国際政治学Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		国際社会と法	2	G1	1	2	3	4		
		市民社会と法	2	G1	1	2	3	4		
		日本と国際法	2	G1	1	2	3	4		
		Intensive English W/RⅠ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Intensive English W/RⅡ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Intensive English L/SⅠ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Intensive English L/SⅡ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		日本語1	2	G1	1	2	3	4	留学生科目	
		日本語2	2	G1	1	2	3	4	留学生科目	
		日本語3	2	G1	1	2	3	4	留学生科目	
		日本語4	2	G1	1	2	3	4	留学生科目	
		Exam Prep.Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		Exam Prep.Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		情報リテラシーⅠ	2	G1	1	2	3	4	履修指定科目	
		情報リテラシーⅡ	2	G1	1	2	3	4	履修指定科目	
		メディアリテラシー	2	G1	1	2	3	4		
		コミュニケーション論	2	G1	1	2	3	4		
		ことばと文化	2	G1	1	2	3	4		
		日本経済入門	2	G1	1	2	3	4		
		世界経済入門	2	G1	1	2	3	4		
		経営学概論	2	G1	1	2	3	4		
		国際ビジネス概論	2	G1	1	2	3	4		
	専門発展科目	国際理解科目群	日本文化論	2	G2		2	3	4	
			比較文化論	2	G2		2	3	4	
			多文化共生社会論	2	G2		2	3	4	
Japanese Culture			2	G2		2	3	4		
Japanese History			2	G2		2	3	4		
Japanese Society			2	G2		2	3	4		
Japanese Geography			2	G2		2	3	4		
Japanese Law and Society			2	G3			3	4		
Comparative Culture			2	G3			3	4		
Comparative Legal System			2	G3			3	4		
ジェンダー論			2	G2		2	3	4		
宗教学			2	G2		2	3	4		
社会思想史			2	G2		2	3	4		
アジア史			2	G2		2	3	4		
アメリカ史			2	G2		2	3	4		
アメリカ外交史			2	G3			3	4		
ヨーロッパ史			2	G2		2	3	4		

区分	科目	単位	グレードG	配当年次	備考
国際理解科目群	現代中国事情	2	G3	3 4	
	現代東南アジア事情	2	G3	3 4	
	現代オセアニア事情	2	G3	3 4	
	現代アメリカ事情	2	G3	3 4	
	現代ヨーロッパ事情	2	G3	3 4	
	現代中東事情	2	G3	3 4	
	Regional Studies(Asia)	2	G3	3 4	
	Regional Studies(Oceania)	2	G3	3 4	
	Regional Studies(America)	2	G3	3 4	
	Regional Studies(Europe)	2	G3	3 4	
	国際政治学Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	国際関係論	2	G2	2 3 4	
	比較政治学	2	G2	2 3 4	
	対外政策論	2	G2	2 3 4	
	安全保障と国際法	2	G2	2 3 4	
	国際紛争の平和的解決と国際法	2	G3	3 4	
	核問題と安全保障	2	G3	3 4	
	International Relations and Law (Introduction to International Law)	2	G2	2 3 4	
	国際協力法	2	G2	2 3 4	
	国際人権法	2	G3	3 4	
	国際社会と人の移動	2	G2	2 3 4	
	International Migration	2	G2	2 3 4	
	Multiculturalism in Modern Society	2	G2	2 3 4	
	異文化適応論	2	G2	2 3 4	
	政治地理学	2	G3	3 4	
	NPO・NGO論	2	G2	2 3 4	
	地方自治と国際協力	2	G2	2 3 4	
	国際機構論	2	G3	3 4	
	比較税制論	2	G3	3 4	
	社会保障の国際比較	2	G3	3 4	
	都市計画の国際比較	2	G3	3 4	
	資源・エネルギー論	2	G2	2 3 4	
コミュニケーション科目群	Advanced English W/R I	2	G2	2 3 4	必修科目
	Advanced English W/R II	2	G2	2 3 4	必修科目
	Advanced English L/S I	2	G2	2 3 4	必修科目
	Advanced English L/S II	2	G2	2 3 4	必修科目
	日本語5	2	G2	2 3 4	留学生科目
	日本語6	2	G2	2 3 4	留学生科目
	日本語7	2	G2	2 3 4	留学生科目
	日本語8	2	G2	2 3 4	留学生科目
	Academic Writing I	2	G3	3 4	
	Academic Writing II	2	G3	3 4	
	Business Communication I	2	G3	3 4	
	Business Communication II	2	G3	3 4	
	Exam Prep. III	2	G2	2 3 4	
	Exam Prep. IV	2	G2	2 3 4	
	Exam Prep. V	2	G2	2 3 4	
	Exam Prep. VI	2	G2	2 3 4	
	Comprehensive English I	2	G3	3 4	
	Comprehensive English II	2	G3	3 4	
	Current Affairs	2	G3	3 4	
	Readings for Global Issues I	2	G2	2 3 4	
	Readings for Global Issues II	2	G2	2 3 4	
	翻訳実践	2	G3	3 4	

区分	科目	単位	グレードG	配当年次	備考
コミュニケーション科目群	観光英語	2	G3	3 4	
	貿易英語	2	G3	3 4	
	日本語文章表現Ⅰ	2	G2	2 3 4	
	日本語文章表現Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	日本語コミュニケーション技法Ⅰ	2	G2	2 3 4	
	日本語コミュニケーション技法Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	アカデミックライティング	2	G3	3 4	
	テクニカルライティング	2	G3	3 4	
	情報セキュリティ論	2	G2	2 3 4	
	ビジネスアプリケーション	2	G2	2 3 4	
	クラウド活用実践	2	G3	3 4	
	データマイニング	2	G3	3 4	
	Webデザイン実践	2	G3	3 4	
	メディア論	2	G2	2 3 4	
	グローバル化とメディア	2	G2	2 3 4	
	ソーシャルメディア論	2	G3	3 4	
	メディアと広告	2	G3	3 4	
	ジャーナリズム論	2	G3	3 4	
	社会心理学	2	G2	2 3 4	
	異文化コミュニケーション	2	G2	2 3 4	
	プレゼンテーション実践	2	G3	3 4	
	ディベート実践	2	G3	3 4	
	ビジネス交渉	2	G3	3 4	
国際ビジネス関連科目群	日本経済論	2	G2	2 3 4	
	世界経済論	2	G2	2 3 4	
	経済政策概論	2	G2	2 3 4	
	国際経済学概論	2	G2	2 3 4	
	国際金融概論	2	G2	2 3 4	
	比較経済論	2	G2	2 3 4	
	Japanese Economy	2	G3	3 4	
	中国経済論	2	G3	3 4	
	東南アジア経済論	2	G3	3 4	
	アメリカ経済論	2	G3	3 4	
	ヨーロッパ経済論	2	G3	3 4	
	ロシア経済論	2	G3	3 4	
	航空経済論	2	G3	3 4	
	Contemporary Economic Issues	2	G3	3 4	
	経営管理概論	2	G2	2 3 4	
	経営戦略論	2	G2	2 3 4	
	Business Management	2	G3	3 4	
	会計学概論	2	G2	2 3 4	
	税法	2	G3	3 4	
	国際会計論	2	G3	3 4	
	経営情報概論	2	G3	3 4	
	マーケティング論	2	G2	2 3 4	
	流通システム論	2	G2	2 3 4	
	ビジネス統計	2	G2	2 3 4	
	国際経営論	2	G2	2 3 4	
	外国為替論	2	G3	3 4	
	貿易商務論	2	G3	3 4	
	貿易金融論	2	G3	3 4	

区分			科目	単位	グレードG		配当年次			備考
専門教育科目	専門発展科目	国際ビジネス関連科目群	国際取引と法(契約と決済)	2	G3		3	4		
			国際取引と法(紛争処理)	2	G3		3	4		
			国際ビジネスと知的財産	2	G3		3	4		
			観光概論	2	G2	2	3	4		
			観光資源論	2	G2	2	3	4		
			国際観光論	2	G3		3	4		
			航空実務	2	G3		3	4		
			クルーズ・ビジネス論	2	G3		3	4		
			ホスピタリティ論	2	G3		3	4		
			Tourism and World Heritages	2	G3		3	4		
			医療ビジネス論	2	G3		3	4		
	演習科目		基礎演習A	2	G1	1	2	3	4	必修科目
			基礎演習B	2	G1	1	2	3	4	必修科目
			専門演習ⅠA	2	G2		2			履修指定科目
			専門演習ⅠB	2	G2		2			履修指定科目
			専門演習ⅡA	2	G3			3		履修指定科目
			専門演習ⅡB	2	G3			3		履修指定科目
			専門演習ⅢA	2	G4				4	履修指定科目
			専門演習ⅢB	2	G4				4	履修指定科目
	留学・体験科目		海外語学研修	2	G1	1	2	3	4	海外語学研修又はフィールド・プロジェクトⅠのいずれかを選択必修。
			フィールド・プロジェクトⅠ	2	G1	1	2	3	4	
			フィールド・プロジェクトⅡ	2	G2		2	3	4	
	キャリア形成科目		国際キャリア開発A	2	G1	1				履修指定科目
			国際キャリア開発B	2	G1	1				履修指定科目
			国際キャリアデザイン演習A	2	G2		2			
			国際キャリアデザイン演習B	2	G2		2			
			国際キャリア演習A	2	G3			3		
			国際キャリア演習B	2	G3			3		
			インターンシップ	2	G2	1	2	3	4	
			海外インターンシップ	2	G2	1	2	3	4	

4

国際学部の人材養成理念・目的

国際学部は、本学の建学の理念の一つである「人権の伸長と国際平和への貢献」に則り、グローバル化の進展により生じる国際的・社会的諸課題を認識し、関連する幅広い学問分野における知見を用いて、課題解決の方法を見出すための教育研究を行います。

これにより、幅広い学際的な知識に基づく複眼的な観点から事象をとらえ、多様な価値観を受容しつつ、様々なグローバルフィールドで課題解決を図ることができる人材を育成します。そういった人材養成を行い、建学の理念の具現化に寄与することが、国際学部の教育研究上の目的です。

グローバル社会における諸課題は、文化、言語、歴史、経済、法律、政治等様々な学問分野の事象間で有機的・複合的に相互作用しています。そのため、グローバル社会における諸課題への対応は、学際的で多様なアプローチを用いて考察する必要があります。

国際学部における人材養成とは、グローバルな視野を持ち世界が抱える多種多様な問題について学修し、多様な学問分野から豊かな教養を身につけ、幅広い視野を持ち、その基盤の上に専門的理解を深めることによってグローバル社会に適切に向き合い、将来を見据える能力を備えた人材の養成にほかなりません。

このような教育研究上の目的を果たすため、本学部は社会科学分野の研究を中心としつつ、関連する分野の研究も併せて行い、産業社会・市民社会への還元を行います。

(1)

養成する人材像

国際学部において養成する人材像は、「異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材」です。

「異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につける」とは、グローバル化された社会において、文化や価値観、考え方の違いを踏まえ、他者の考えや意見を理解し、自らの考えを的確に伝える能力を身につけることです。「幅広い教養と専門性」とは、グローバル社会における諸課題を理解するために必要な、文化、言語、歴史、経済、法律、政治等様々な学際的専門知識とそれを修得するうえで基盤となる教養を表します。国際学部では、これらの能力や知識を身につけ、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。

(2)

学生が修得すべき能力

このような人材養成を実現するために学生が修得すべき能力は、「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」、「国際協働力」であると定義し、その具体的な養成する能力の内容は下記のとおりです。

1.

国際理解力

国際理解力の基本的な要素は3つあり、その具体的な内容は下記のとおりです。

第1に、自国理解を基礎とした異文化理解、多文化共生志向です。自国のことを理解せずに異文化の理解はありえません。自国の文化、歴史、制度等を他国の文化、歴史、制度等と比較しながら学修することで、自国の特徴をよりよく理解することができるとともに、自国との相違を認識したうえで他国を尊重し、受容する国際感覚の修得は、国際的なビジネス・市民社会で活躍するために不可欠なものです。

第2に、グローバリゼーションとグローバルイシューの理解です。グローバリゼーションとは、経済にけん引された地球的規模でのボーダーレス化の進展と国家関係の緊密化、ICT(情報通信技術)の進歩や交通機関の発達による国境を越えた人々の移動により、様々な領域の問題が多くの国を巻き込んで地球規模に拡大している事態であり、グローバルイシューとは、経済・環境・人権・開発・ジェンダーなど、地球的規模での解決が必要な問題を指します。

第3に、他者の視点で物事をみる力です。多様性に富んだ国際社会では、他者の視点が自身と異なる価値観に基づくため、理解が困難な様々な事象が繰り返されることがあります。そこで、人間の価値観を形成する様々な社会的背景、例えば各国・地域の社会事情や歴史、文化を学ぶとともに、宗教、ジェンダー等の幅広い知識や考え方を修得することが必要となります。まずは他者の視点を理解すること、そして他者の視点で物事をみることにより、国際社会において客観的な判断に立って行動をすることができます。

2.

国際コミュニケーション力

国際コミュニケーション力の基本的な要素は2つあり、その具体的な内容は下記のとおりです。

第1に、コミュニケーションツール、すなわち国際社会の共通言語である英語、自国言語の日本語、ICTを活用するための情報リテラシーの修得です。

英語については、言語学としての専門性の修得を目的とするのではなく、英語を用いて国際社会の様々な場面において必要なコミュニケーションを図ることができる実践的な活用力を重視します。英語を外国語学修の中心とするのは、グローバル化の進展の中で、国際社会の共通言語としての英語の重要性がますます高まっており、英語圏にとどまらず非英語圏においても第二言語として通用することから、グローバル人材にとって必要不可欠な言語となっていることによります。特に国際的なビジネス社会では、交渉・契約等にあたって、英語を基本言語として使用するのが通例であり、事業のグローバル化を進める日本企業が採用・昇格にあたって英語運用能力をより重視するようになってきているのもそのような状況の反映です。このような観点から、国際的なビジネス・市民社会で活躍するグローバル人材を養成することを目的とする国際学部においては、英語運用能力を学生に修得させるべき必須の能力としています。

日本語については、日本の文化に根付いた敬語や謙譲語の違いや、正しい漢字使用、論文やレポートにふさわしい表現を使いこなせる等、狭義の言語技術に加え、自身のおかれている立場や社会、人間関係を観察・分析し、状況に応じた適切な言語レベルと語彙を用い、正しい日本語でコミュニケーションがとれる能力を修得します。さらに、言葉の学修を通して、日本文化、日本人の価値観等、日本語への理解を深めるとともに、その実践を通して主体的なグローバル人材の育成に結びつけます。

情報リテラシーについては、グローバル化が高度な情報化と緊密な関係を持ちながら進展している状況に鑑み、基本的な情報スキルの修得はもちろん、批判的に情報や情報探索過程を評価できる能力、情報を収集し分析する能力、さらに自ら情報を発信する能力の修得が必要です。

様々なコミュニケーションツールを利用することで意思疎通を図れば、形式的なコミュニケーションにとどまらず、互いの考えについてより深い理解を得られるような高度なコミュニケーションが成立することが期待されます。そのため、英語、日本語、情報リテラシーを国際コミュニケーション力に必要なコミュニケーションツールと定義し、各々のツールを活用する能力を養成します。

第2に、コミュニケーションスキルとして必要な能力の養成を行います。自分自身の考えを相手に伝えるための自己表現力（プレゼンテーション力）、相手に考えていることを伝え、相互理解や認識の共有等を図るための意思疎通力、ビジネスを始めとする様々な場面で求められる交渉力・合意形成力です。

3. 国際ビジネス力

国際ビジネス力に必要な基本的な要素は3つあり、その具体的な内容は下記のとおりです。

第1に、国際ビジネスを円滑に遂行するためには、国際経済情勢の理解が必要です。国際ビジネスを展開するためには、各国や地域の経済情勢について理解し、国際ビジネスの展開のために活用できる必要があるため、国際経済情勢に関する専門知識を修得します。

第2に、国際ビジネスの専門的な業務に取り組むためには、国際ビジネス業務に関わる専門知識及び実践能力を身につける必要があります。国際経済情勢の理解を前提とし、貿易、金融、外国為替、調査研究、企画・製品開発や市場創造等に関する専門知識及び実践能力を修得します。

第3に、国際ビジネスでは商慣習・法制度等の相違から、トラブル・紛争が発生することが多いですが、そのようなトラブルに対応するために、契約や紛争処理に関する知識を身につける必要があります。また、観光の分野における人材需要の高まりに対応するために、観光に関する知識を身につける必要があります。国際ビジネスの関連領域である契約や紛争解決に関わるビジネス法学や観光等に関する専門知識及び実践能力を修得します。

4. 国際協働力

国際協働力に必要な基本的な要素は4つあり、その具体的な内容は下記のとおりです。

第1に、多様性の尊重と主体性の涵養です。国際社会で異文化圏の人々と一緒に働く場合、多様な異文化を理解し、尊重しつつも、自国文化に自信と誇りを持ち対応することが求められるため、多様性を尊重しつつ、主体性を涵養する能力を養成する必要があります。

第2に、チームワークとリーダーシップです。

チームワークとは、チームの目標を実現するためにメンバーが自己の創造性を活用して最大限の貢献をしようと互いに努力しあう活動です。チームワークとは本来メンバー間の相互の育成、教育を伴うものです。自らがリーダーとなって成果を上げるべき状況であれば統率を取り、上司として行動するが、部下の成長を助けることも必要になります。つまり、組織のメンバーはそれぞれ自己のリーダーシップの向上、発揮に努めると同時に、他者のリーダーシップ育成を手伝います。グローバル社会で活躍する人材には、このようなチームワーク・リーダーシップの重要性を理解し、業務に取り組む必要があります。そのため、チー

ムワークとリーダーシップの能力を養成します。

第3に、文化や価値観が異なる人々と協働する力です。異なる価値観やコミュニケーション方法を認識し、違いを善悪や優劣で判断せず、価値観が異なる相手と協力して仕事を遂行できる力を養成します。

第4に、たくましい行動力とストレス耐性です。何事にもあきらめず、突き進む行動力と様々なストレスに打ち勝つ前向きさは、文化や価値観が異なる人々と協働する上で重要な素養となることから、たくましい行動力とストレス耐性を培います。

(1) 広く人文・社会科学にわたる学際的学修

「グローバル人材」は、語学力・コミュニケーション能力や主体性・積極性、チャレンジ精神といった態度・志向性ととも、世界各国・地域の文化、歴史、社会、経済に対する幅広い知識が必要とされています。グローバル化する現代社会の諸課題を、歴史・文化、経済・経営、国際関係などの多様な視点から総合的・学際的に把握する見方と方法を学ぶことを重視しています。

そのため、1年次に専門基礎科目を学んだ後、2年次から4年次にかけて「国際理解」、「コミュニケーション」、「国際ビジネス関連」の3分野の専門発展科目群を複合的・学際的に学修する教育課程を提供しています。これにより、国際的なビジネス・市民社会で活躍する上で求められる幅広い知識と素養とともに、論理的思考力や公正な視点、異文化理解力を身につけることができます。

(2) コミュニケーションの基盤となる異文化理解の醸成

グローバル社会におけるコミュニケーションを支える基盤として、異文化に対する理解と多文化共生を育む人材の養成を目指し、世界各国・地域の文化、歴史と、現代の社会事情に関する科目を幅広く設置します。また、異文化理解の前提として、日本の文化、歴史、社会に対する理解は不可欠であることから、これらを理解するための科目を幅広く設置します。

(3) 実践的なコミュニケーション能力の育成

グローバル化時代に求められる実践的なコミュニケーション能力を、英語、日本語、情報リテラシーという3つのコミュニケーションツール、自己表現力、意思疎通力、交渉・合意形成力という3つのコミュニケーションスキルを総合したものと位置付けています。

1. コミュニケーションツール

体系的な語学科目と国際的な体験を行う科目を有機的に連携させた学修を通じて、実践的な英語運用能力を身につけます。1・2年次は、習熟度別に編成された少人数クラスにおいて、英語ネイティブ教員と日本人教員が協働して教育に取り組み、学生に英語の4技能（文章表現・読解・聴解・口頭表現）をバランスよく身につけるとともに、1年次の早期から実施する多彩な留学・海外体験と合わせて英語運用能力を高めます。

グローバル化は高度に発展した情報メディアと密接な関係にあり、今や企業・社会活動において情報リテラシーは必須のスキルとなっています。高度に情報化された現代社会を理解するとともに、ICTの活用能力、情報収集・分析・発信力等、様々なメディアを駆使した発信力ある人材の養成をめざします。

2. コミュニケーションスキル

コミュニケーション論、異文化コミュニケーション等の理論的な理解とともに、プレゼンテーション、ディベート、ビジネス交渉等を少人数で学ぶ授業を通じて、自己表現力、意思疎通力、交渉・合意形成力等を身につけます。また、各専門授業における少人数・双方向型教育や留学・海外体験、専門演習におけるPBL（Project-Based Learning）等の実践型教育を通して、コミュニケーションスキルを実践的に高めていきます。

(4) 1年次からの海外体験、多彩な留学プログラム等の国際教育プログラム

国際学部では、全学部生が1年次に「海外語学研修」又は海外での「フィールド・プロジェクトⅠ」に参加することになっています。これは語学力の向上という意義に加えて、学生たちが異文化に出会い、異なる国の人々と交流することの楽しさを早期に体験することを通じて、異文化に対する適応力や好奇心・積極性を高め、学修のモチベーションを高めることを重視しているためです。

そして、1年次の早期海外体験による異文化に対する基礎的理解とモチベーションの向上を土台に、希望者は2～3年次に1セメスターの英語留学を通してコミュニケーション能力を高め、3～4年次には海外協定校への交換留学や海外インターンシップ等を通して、より実践的なコミュニケーション能力と専門知識、就業力を身につけることができます。

(5) 1年次から4年間にわたる演習教育をはじめとする少人数教育

国際学部では、演習を1年次から4年次まで4年間を通して開講します。これらの演習は20人を定員とし、少人数による双方向型の教育を重視しています。また英語教育科目は1クラス20人を定員とした少人数クラスで実施します。

このような少人数教育を通じて、教員と学生、学生同士の学問的接触と人格的交流を活発に展開し、専門の基礎・発展の教育、多彩な留学・海外体験プログラム、キャリア教育と就職支援まで、4年間の学士課程教育全体を通して丁寧な教育を実施します。

●アドバイザー制度

国際学部では、語学・専門学修と海外体験・留学との相乗効果や将来の進路を見据えた海外体験・留学のプランニングなど、学生の将来の進路や希望を考慮しながら、学生が適切な選択ができるようにアドバイスを与え、支援し、4年間を通して学生の成長を見守っていく必要があります。そこで、演習担当者がアドバイザーとしてアドバイスをを行います。

(6) 将来の進路に対応した2つのコース

国際学部では、共通の教育課程の学修を基盤として、進路や関心に合わせて専門科目を体系的に履修できるように、履修モデル群として2つのコースを設定しています。

1. 国際コミュニケーションコース

「国際コミュニケーションコース」では、世界の様々な国や地域の多様なバックグラウンドを持った人々と協働し、共に生きていくために、多様な価値観を尊重し、異なる文化や社会の中でその差異を受容しながら問題解決を図ることができる国際感覚を有する人材を養成することを目標とします。

2. グローバルキャリアコース

「グローバルキャリアコース」では、経済・経営を中心とする知識や素養に加え、ビジネス法学、世界情勢や国際関係のほか、異文化に対する理解等を前提とする広い教養を兼ね備え、主にビジネスの国際的展開に貢献できる人材を育成することを目標とします。

(7) 異文化理解と多文化共生を育む国際色豊かな教育空間

国際学部では、留学・海外体験プログラムによる異文化・国際交流の体験を重視するとともに、キャンパス内においてもネイティブ教員や多様な国・地域出身の留学生との交流を積極的に推進し、豊かな国際感覚を育むキャンパスライフを創出します。

国際学部では、専任教員の多くが国際的な研究・就業経験を有しています。また現在、本学は多様な国・地域からの留学生が在籍しており、専門演習をはじめとする少人数教育、学内外で実施される様々な異文化交流活動を通して、日本人学生と留学生との教育上・学生生活上の交流が活発に行われています。

このような学内における異文化・国際交流活動をより積極的に実施し、国際色豊かな教育空間を日常的に創出します。

(8) キャリア教育の一環としての特別プログラムと資格取得支援

4年間にわたる体系的なキャリア教育を実施するのに加え、人材養成のための特別プログラムの実施、資格取得の支援を正課外のプログラムで積極的にサポートします。本学部が想定する卒業後の進路に対応した特別プログラムを実施します。

1年次は、TOEIC® 対策となる英語基礎講座を開講します。加えて、TOEFL® やIELTS™ 等の受験を積極的に推奨します。これらの試験については、学内で試験対策講座を実施し、スコアアップを図ることができるよう支援体制を整えていきます。

(1) 国際学部の教育課程編成の基本方針

専門教育科目は、1年次に「専門基礎科目」で基礎的な専門知識を修得し、2年次以降に「専門発展科目」（「国際理解科目群」、「コミュニケーション科目群」、「国際ビジネス関連科目群」）で発展的な専門知識を学際的に学修します。また、将来の進路に対応した2つのコース、「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」に基づいて、体系的・専門的な学修を行います。

また、「体験重視」「実践重視」の考えのもと、全学部生が1年次の早期から海外体験を行えるようにするほか、在学中に複数回・複数国に留学ができる体制を整えています。

それと同時に、共通教育科目の履修を通じて、幅広い分野の教養学修を行います。その際、学生の興味・関心に応じて履修するだけでなく、履修モデルによって推奨する科目を示すことで、本学部の専門教育と補完的関係にある科目の履修を推奨するなど、学生がより目的意識的な学修を行えるようにします。

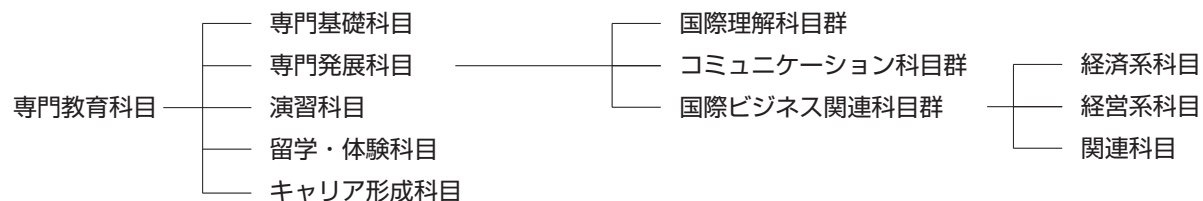
4年間を通じて設定される演習では、履修指導・学修指導とキャリア支援を行い、学生が目的意識をもって学修に取り組むようにするとともに、国際学部の特性に合わせたキャリア教育を実施します。

(2) 教育課程の科目区分及び科目構成

国際学部の教育課程は、「専門教育科目」と「共通教育科目」で構成されています。

1. 専門教育科目

「専門教育科目」は、「専門基礎科目」、「専門発展科目」、「演習科目」、「留学・体験科目」及び「キャリア形成科目」に区分しています。



(1) 専門基礎科目

この科目区分に設置される科目は、専門知識を修得するにあたって必要な基礎的知識を学修するものであり、1年次に担当しています。「異文化理解Ⅰ」、「異文化理解Ⅱ」、「日本史概論Ⅰ」、「日本史概論Ⅱ」、「世界史概論Ⅰ」、「世界史概論Ⅱ」、「国際政治学Ⅰ」、「国際社会と法」、「市民社会と法」、「日本と国際法」では、自国理解に基づく国際理解を促進するための基礎的な知識を身につけます。

また、「国際コミュニケーション力」における英語運用能力を高めるために必須となる、4技能（文章表現・読解・聴解・口頭表現）を入学後の早い段階で修得することを目標として、「Intensive English W/RⅠ」、「Intensive English W/RⅡ」、「Intensive English L/SⅠ」、「Intensive English L/SⅡ」の4科目（8単位）を設置し、必修科目としています。

さらに、「国際コミュニケーション力」を身につけるための基礎知識や技能を修得する「Exam Prep.Ⅰ」、「Exam Prep.Ⅱ」、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、「メディアリテラシー」、「コミュニケーション論」、「ことばと文化」を設置し、「国際ビジネス力」を身につけるための基礎知識を修得するために「日本経済入門」、「世界経済入門」、「経営学概論」、「国際ビジネス概論」を配置しています。

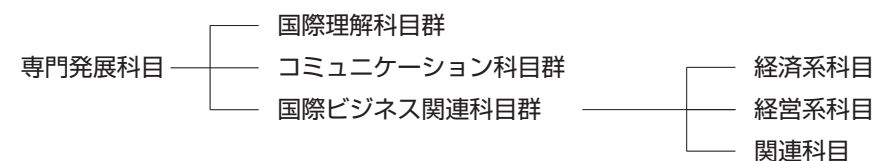
< 1年次必修外国語 >

「Intensive English W/RⅠ」、「Intensive English W/RⅡ」、「Intensive English L/SⅠ」、「Intensive English L/SⅡ」の4科目（8単位）

※ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

(2) 専門発展科目

「専門発展科目」においては、「専門基礎科目」で修得した知識に基づく発展学修を行います。「専門発展科目」では、「国際理解力」の修得を目的とした「国際理解科目群」、「国際コミュニケーション力」の修得を目的とした「コミュニケーション科目群」、「国際ビジネス力」の修得を目的とした「国際ビジネス関連科目群」を設定しています。これにより、学際的かつ複合的に専門学修を行うとともに、基礎から発展という段階的な学修が可能となっています。



「専門発展科目」は、「専門基礎科目」で修得した基礎的な専門知識に基づいて学修を行うために、2年次から4年次に配当しています。なお、「専門発展科目」の各科目群において、専門基礎科目に続いて早期に学修しておくことが望ましい科目や、科目群の中における基本的な知識および技能について学修する科目を2年次配当とし、より発展的な内容を扱う科目を3・4年次配当としています。また、学生が体系的な履修を行うように、履修モデルに沿って、適宜、履修指導を実施します。各履修モデルでは、特に3・4年次にそれぞれの進路に関係の深い科目を履修します。

① 国際理解科目群

「国際理解科目群」では、多文化共生を志向し、異文化理解を育むために必要な日本と世界の文化・歴史・社会等に関する科目を設置しています。「国際理解科目群」の科目を履修することで、自国理解に基づき多様な価値観を受容しながら、グローバル化や地球的・地域的課題を認識する「国際理解力」を身につけます。そのために、下記のa. 自国理解を基礎とした異文化理解・多文化共生志向を育む科目、b. グローバリゼーションとグローバルイシューを理解する科目、c. 他者の視点で物事を見る力を育む科目を配置しています。

a. 自国理解を基礎とした異文化理解・多文化共生志向	「日本文化論」、「比較文化論」、「多文化共生社会論」、「Multiculturalism in Modern Society」、「異文化適応論」、「Japanese Culture」、「Japanese History」、「Japanese Society」、「Japanese Geography」、「Japanese Law and Society」、「Comparative Culture」、「Comparative Legal System」
b. グローバリゼーションとグローバルイシューの理解	「国際政治学Ⅱ」、「国際関係論」、「比較政治学」、「対外政策論」、「安全保障と国際法」、「核問題と安全保障」、「国際紛争の平和的解決と国際法」、「International Relations and Law (Introduction to International Law)」、「国際協力法」、「国際人権法」、「国際社会と人の移動」、「International Migration」、「政治地理学」、「NPO・NGO論」、「地方自治と国際協力」、「国際機構論」、「比較税制論」、「社会保障の国際比較」、「都市計画の国際比較」、「資源・エネルギー論」
c. 他者の視点で物事を見る力	「多文化共生社会論」、「ジェンダー論」、「宗教学」、「社会思想史」、「アジア史」、「アメリカ史」、「アメリカ外交史」、「ヨーロッパ史」、「現代中国事情」、「現代東南アジア事情」、「現代オセアニア事情」、「現代アメリカ事情」、「現代ヨーロッパ事情」、「現代中東事情」、「Regional Studies (Asia)」、「Regional Studies (Oceania)」、「Regional Studies (America)」、「Regional Studies (Europe)」

② コミュニケーション科目群

「コミュニケーション科目群」では、実践的なコミュニケーション能力を修得し、グローバルな場面で通用する英語運用能力を身につけるための科目や、コミュニケーションの媒体としての情報とメディアに関連する科目等を配置しています。「コミュニケーション科目群」の科目を履修することで、コミュニケーションツールとして英語や日本語、ICTを活用する能力と、プレゼンテーションスキルや交渉力等のコミュニケーションスキルを含む「国際コミュニケーション力」を身につけます。そのために、下記のa. コミュニケーションツールを修得する科目、b. コミュニケーションスキルを修得する科目を配置しています。

a. コミュニケーションツールの 修得	＜英語＞ 「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」、 「Academic Writing I」、 「Academic Writing II」、 「Business Communication I」、 「Business Communication II」、 「Exam Prep. III」、 「Exam Prep. IV」、 「Exam Prep. V」、 「Exam Prep. VI」、 「Comprehensive English I」、 「Comprehensive English II」、 「Current Affairs」、 「Readings for Global Issues I」、 「Readings for Global Issues II」、 「翻訳実践」、 「観光英語」、 「貿易英語」
	＜日本語＞ 「日本語文章表現 I」、 「日本語文章表現 II」、 「アカデミックライティング」、 「テクニカルライティング」、 「日本語コミュニケーション技法 I」、 「日本語コミュニケーション技法 II」
	＜情報リテラシー＞ 「情報セキュリティ論」、 「ビジネスアプリケーション」、 「クラウド活用実践」、 「データマイニング」、 「Webデザイン実践」、 「メディア論」、 「グローバル化とメディア」、 「ソーシャルメディア論」、 「メディアと広告」、 「ジャーナリズム論」
b. コミュニケーションスキルの 修得	「社会心理学」、 「異文化コミュニケーション」、 「プレゼンテーション実践」、 「ディベート実践」、 「ビジネス交渉」

「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」 の4科目（8単位）は、1年次の英語必修科目である「Intensive English W/R I」、 「Intensive English W/R II」、 「Intensive English L/S I」、 「Intensive English L/S II」 の発展科目であり、より高度な文脈や複雑な場面において、必要な情報を英語で正確に抽出し、発信する力を養うことを目的とした科目であり、2年次における必修科目です。

＜2年次必修外国語＞ 「Advanced English W/R I」、 「Advanced English W/R II」、 「Advanced English L/S I」、 「Advanced English L/S II」 の4科目（8単位） ※ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語 5」、「日本語 6」、「日本語 7」、「日本語 8」 の4科目 8単位の修得をもって満たすことができる。

③ 国際ビジネス関連科目群

「国際ビジネス関連科目群」では、グローバルに展開する様々なビジネスに関わる事柄を理解するための学修を行う科目を設置しています。「国際ビジネス関連科目群」の科目を履修することで、グローバルなビジネスの現場における諸課題を的確に認識し、その解決のために取り組むことができる「国際ビジネス力」を身につけます。

そのために、下記のa. 国際的な経済情勢を理解する科目、b. 国際ビジネスの専門知識及び実践能力を修得する科目、c. 国際ビジネスの関連領域であるビジネス法学、観光等の基礎的な専門知識及び実践能力を修得する科目を配置しています。

a. 国際的な経済情勢の理解 (経済系科目)	「日本経済論」、 「世界経済論」、 「経済政策概論」、 「国際経済学概論」、 「国際金融概論」、 「比較経済論」、 「Japanese Economy」、 「中国経済論」、 「東南アジア経済論」、 「アメリカ経済論」、 「ヨーロッパ経済論」、 「ロシア経済論」、 「航空経済論」、 「Contemporary Economic Issues」
b. 国際ビジネスの専門知識及び実践能力の修得 (経営系科目)	「経営管理概論」、 「経営戦略論」、 「Business Management」、 「会計学概論」、 「税法」、 「国際会計論」、 「経営情報概論」、 「マーケティング論」、 「流通システム論」、 「ビジネス統計」、 「国際経営論」、 「外国為替論」、 「貿易商務論」、 「貿易金融論」
c. 国際ビジネスの関連領域である ビジネス法学、観光等の基礎的な専門知識及び実践能力の修得 (関連科目)	「国際取引と法（契約と決済）」、 「国際取引と法（紛争処理）」、 「国際ビジネスと知的財産」、 「観光概論」、 「観光資源論」、 「国際観光論」、 「航空実務」、 「クルーズ・ビジネス論」、 「ホスピタリティ論」、 「Tourism and World Heritages」、 「医療ビジネス論」

(3) 演習科目

講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。

学生は自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、「留学・体験科目」、「キャリア形成科目」と合わせて、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。また「演習科目」では、段階的・体系的に編成された教育課程を、趣旨に沿って適切に履修するように指導します。その際、個々の学生における学修の進捗や到達度を学修ポートフォリオ等により共有し、担当教員を中心とした支援体制のもとで指導を行います。

「演習科目」は、1年次に「基礎演習A」、「基礎演習B」、2年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行います。

学部における学修に必要な基礎的素養を身につけさせることの重要性和、早期の海外体験に参加するにあたり、その準備のための指導が必要であることから、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目（4単位）は必修です。さらに、4年間を通して一貫した指導を行うために、2年次以降の「演習科目」を履修指定しています。

1年次	2年次	3年次	4年次
基礎演習A・B（必修）	専門演習ⅠA・B※	専門演習ⅡA・B※	専門演習ⅢA・B※

※履修指定科目

●基礎演習

1年次の必修科目である「基礎演習A」、「基礎演習B」では、大学での学修に必要な自主的かつ積極的な学修態度や技能等を身につけることを目的とするとともに、同様に1年次の必修科目である「留学・体験科目」（「フィールド・プロジェクトⅠ」もしくは「海外語学研修」）の履修を安全かつ円滑に行えるよう、海外に行く心構えを持ち、グループとして行動する上での規律を身につけ、積極的に参加する意欲を喚起し、渡航によって「気づき（語学＋専門の学修動機）」を得られるようにしています。

(4) 留学・体験科目

海外における集中的な英語学修と体験・実践を通じて、学修動機の形成と向上を図り、グローバル人材としての能力を修得するため、下記の「留学・体験科目」を設置しています。「海外語学研修」と「フィールド・プロジェクトⅠ」を選択必修とし、1年次においていずれか1科目を履修することになっています。

海外における集中的な学修と体験は、英語運用能力、コミュニケーション能力、異文化理解、国際協働力などの効率的でバランスのとれた成長、さらには、学修動機の形成と向上に有効です。海外における学修と体験が、学生の成長、課題発見、学修動機の形成と向上に与える効果に着目し、その機会を早期に提供することが国際学部の教育目標の達成に有効であるため、「海外語学研修」あるいは「フィールド・プロジェクトⅠ」を1年次の選択必修科目としています。

2年次以降、2回目に「フィールド・プロジェクト」に参加する場合は、「フィールド・プロジェクトⅡ」として履修登録を行います。

(5) キャリア形成科目

1年次	2年次	3年次
国際キャリア開発A・B※	国際キャリアデザイン演習A・B	国際キャリア演習A・B

※履修指定科目

国際学部では、「キャリア形成科目」を設定し、4年間を通した段階的・体系的なキャリア教育を行い、国際コミュニケーション力と国際協働力を中心に、グローバル人材に必要な素養を涵養するとともに、社会的・職業的自立に必要な能力を養成します。「キャリア形成科目」ではグループワーク等のアクティブ・ラーニングにより、自己表現力（プレゼンテーション力）や意思疎通力をはじめとするコミュニケーション能力と協働して課題に取り組む能力の向上を図ります。

1年次には、「国際キャリア開発A」、「国際キャリア開発B」で、グローバル化する現代社会で就業することについての動機づけを行い、そのために必要とされる能力について理解します。

2年次には、「国際キャリアデザイン演習A」、「国際キャリアデザイン演習B」で、自己・社会・職業についての理解を深め、将来のキャリアデザインとその実現に必要な社会人基礎力を養成します。

3年次には、「国際キャリア演習A」、「国際キャリア演習B」で、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を育成します。

また、国内外での就業体験を通じて、将来の進路や職業の選択に向けた職業観の涵養を目的として、「インターンシップ」と「海外インターンシップ」を設置しています。これらの科目は、1・2・3・4年次に配当しています。

なお、4年次については、「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」の各クラスにキャリアセンターの専門スタッフが専属の担当としてつき、専門演習の担当教員とともに、個別のキャリア指導を行います。

2. 共通教育科目

「共通教育科目」では、本学部で養成する人材像で掲げる「幅広い教養」を身につけるために、多様な分野における教養教育を行っています。そのため、各分野において、人文、社会、自然科学を学修する科目、情報、健康に関する知識や技能を修得する科目、現代的な諸課題を考察する科目等を配置しています。

これら「共通教育科目」は、グローバル人材養成に必要な幅広い教養教育を提供するもので、基本的に1年次から4年次に配当し、それぞれの興味・関心に応じて履修できるようになっています。

ただし、大学で必要とされる文章表現力の修得を目標とする「文章表現入門」と、基礎的な体力の向上と健康の増進を図る「基礎体育A」、「基礎体育B」は、特に1年次に履修することが望ましいので1年次に配当しています。また、情報、環境、健康等に関する科目で、発展的な内容を扱う科目は2年次以降に配当しています。

「共通教育科目」において、本学部の専門科目との関係で入門的・導入的性格を有する科目等、特に履修すべきと思われるものについては、履修モデルにおいて推奨科目として例示しています。

(1) 国際学部 1年次教育プログラム科目群

区分	科目名	時期	備考
専門教育科目	異文化理解Ⅰ	春	履修推奨
	異文化理解Ⅱ	秋	履修推奨
	日本史概論Ⅰ	春	
	日本史概論Ⅱ	秋	
	世界史概論Ⅰ	春	
	世界史概論Ⅱ	秋	
	国際政治学Ⅰ	秋	
	国際社会と法	秋	
	市民社会と法	春	
	日本と国際法	秋	
	Intensive English W/RⅠ	春	必修科目※
	Intensive English W/RⅡ	秋	必修科目※
	Intensive English L/SⅠ	春	必修科目※
	Intensive English L/SⅡ	秋	必修科目※
	日本語1		留学生科目
	日本語2		留学生科目
	日本語3		留学生科目
	日本語4		留学生科目
	Exam Prep.Ⅰ	春	
	Exam Prep.Ⅱ	秋	
	情報リテラシーⅠ	春	履修指定科目
	情報リテラシーⅡ	秋	履修指定科目
	メディアリテラシー	秋	
	コミュニケーション論	春	
	ことばと文化	秋	
	日本経済入門	春	
	世界経済入門	秋	
	経営学概論	春	
	国際ビジネス概論	秋	
演習科目	基礎演習A	春	必修
	基礎演習B	秋	必修
留学・体験科目	海外語学研修 フィールド・プロジェクトⅠ	夏または 春の休業中	いずれか選択必修
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	春	履修指定科目
	国際キャリア開発B	秋	履修指定科目
共通教育科目	文章表現入門ほか ※「文章表現入門」をはじめ、多くの共通教育科目が開講されており、将来のキャリアや専門教育との関連を考え、幅広く履修することが可能です。		

※ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

(2) 1年次教育プログラムの位置づけ

国際学部1年次教育は、高校から大学への学修スタイルを円滑に転換し、「大学への入門」としてのアカデミックスキルやスチューデントスキルを身につけます。また、国際学部における教育の一年目として、「世界へ関心を持つ」「英語で学ぶ」「海外体験（語学研修、フィールド・プロジェクト）」を軸とするグローバル素養教育と位置付け、新入生が履修する科目群です。

国際学部では、「海外体験を通じて、今後の語学および専門学修での動機づけとなるような『気づき』を得ることができる学生」および「世界に飛び出す心構えを持ち、積極的に参加する学生」の養成をめざしています。

「世界に飛び出す」ことへの心構えについては学生間に差があり、教員からのアドバイスやサポートを通じ、学生への働きかけにより海外体験への期待感を膨らませることができるようサポートします。特に基礎演習を通じ、担当教員はひとりひとりの学生に対し、柔軟性のある対応を行います。

(3) 授業の運営

1年次教育プログラム科目群では、大学生としての生活態度や学修姿勢とともに、大学での学修方法とグローバルな舞台で求められる専門基礎知識や素養を学びます。1年次教育プログラム科目群のすべての科目は、素早くアカデミックスキルやスチューデントスキルを身につけるためにも、特に積極的な授業参加を求めます。

1年次教育プログラムの中心は「基礎演習A・B」です。この1年次演習は、春学期・秋学期を通じて1年間継続します。基礎演習A・Bのクラスでは、教員がアドバイザー（後述のアドバイザー制度を参照）を担当します。アドバイザーである担当教員に加え、キャンパスアドバイザー（事務職員）及びスチューデントアシスタント（上級生）の体制でクラスの運営を行います。

「基礎演習A・B」では、大学からの通知や連絡事項の伝達、履修確認表や、成績表の交付などをおこないます。また、学修のみならず、留学や海外体験等を含む学生生活全般についての、個別の相談に応じます。

(4) 1年次の必修・選択必修・履修指定・履修推奨科目

国際学部の1年生の必修・選択必修・履修指定・履修推奨科目は以下のとおりです。

春学期		単位数	秋学期		単位数
専門教育科目	【必修科目】		専門教育科目	【必修科目】	
	Intensive English W/RⅠ※1	2		Intensive English W/RⅡ※1	2
	Intensive English L/SⅠ※1	2		Intensive English L/SⅡ※1	2
	基礎演習A	2		基礎演習B	2
	【選択必修科目】			【選択必修科目】	
	フィールド・プロジェクトⅠ※2	2		フィールド・プロジェクトⅠ※2	2
	海外語学研修	2		海外語学研修	2
	【履修指定科目】			【履修指定科目】	
	情報リテラシーⅠ	2		情報リテラシーⅡ	2
	国際キャリア開発A	2		国際キャリア開発B	2
	【履修推奨科目】			【履修推奨科目】	
	異文化理解Ⅰ	2		異文化理解Ⅱ	2

※1 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

※2 フィールド・プロジェクトⅠは、夏季プログラム参加の場合は春学期、春季プログラム参加の場合は秋学期の履修が必要です。

国際学部 の 2 年次教育

国際学部2年次の教育は、「世界を知る力」と「使える英語」を身につけ、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成するという目的を達成するために、1年次で修得した基礎的な知識を広げ、基盤となる能力を高める段階として位置づけています。

2年次では、国際コミュニケーションコースとグローバルキャリアコースの2つのコースのどちらかを選択し、両コースの基盤となる「世界をより広く知る」、「さらなる英語運用能力の向上および、中・長期の海外体験への積極的参加」、「国際理解と多文化共生志向の育成」、「グローバルレベルでの幅のあるキャリアイメージの形成」を目指した教育を行います。

1. 2年次の学修目標

国際学部2年次では、「世界を知る力」を身につけるための知識と能力を修得するための「国際理解科目群」、「コミュニケーション科目群」、「国際ビジネス科目群」の「専門発展科目」を開講し、それらの科目間での有機的な連関を深め、学際的な学びを促進します。また、1年次に引き続き、大学での学修に必要な自主的かつ積極的な学修態度や技能等を伸ばしながら、専門学修での知識を有機的に結びつける場として専門演習を運営し、グローバルに活躍するための社会観と職業観を養成します。

これらの科目の学修をとおりて、2年次においては下記の到達目標を掲げています。

○ 到達目標

- ①グローバル化する現代社会の諸問題に関する基礎知識を広げ、学修動機を向上させる。
- ②正課の授業および、留学等の海外体験プログラムの参加によって、英語を中心とする言語運用能力を向上させる。
- ③情報の収集・分析能力を伸ばし、コミュニケーション能力を高める。
- ④国際ビジネスに興味関心を広げ、自己や社会、職業について関心を深める。
- ⑤互いの異なる文化や価値観を認め、アイデンティティの確立の土台を創る。

2. 「国際協働力」の涵養

「国際協働力」の養成に関しては、主に演習関連科目およびキャリア形成科目を中心に学修し、下記の到達目標を掲げています。

○ 到達目標

- ①積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。
- ②国際理解・多文化共生志向を深める。
- ③互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からの指導を受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。
- ④特別プログラムなどへの積極的な参加を通して、職業選択の幅と深さを知り、自身のキャリアイメージを具体化する。

3. 「国際理解力」の涵養

2年次の国際理解科目での学修を、「世界に対する多角的な視点を知る」ための段階と位置づけています。そこで、「広く知る」をキーワードに、科目の連関に留意して授業運営を行います。

まずは、多角的な視点の基礎となる歴史・文化・ジェンダー・宗教・価値観などの知識の幅を広げます。さらに、多様なアクターの動きに注目しながら国際関係に関する知識の幅を広げ、3年次からの「世界を多角的な視点から考え、知識を応用し、自身の意見をもつ」という一段レベルの上がる授業内容へとつなげてゆきます。

国際コミュニケーションコース履修者は、日本国内から見た国際関係を広く学ぶ科目を推奨しています。具体的には、日本の歴史および文化への理解をベースに国境を越えた人の移動や自治体協力のあり方等を学修します。

グローバル・キャリアコース履修者は、国際関係を通じて世界各地で生じるローカルな諸問題（国内問題および地域問題）を広く学ぶ科目を推奨します。具体的には、多様な文化、宗教、ジェンダー、社会思想、資源・エネルギーについて学修します。

○ 到達目標

- ①歴史・文化・ジェンダー・宗教・価値観などの共通性や差異への「気づき」を促し、知識の修得へと展開させ、各自が持った関心(面白み)をさらに押し広げる。
- ②個人、NPO・NGO、自治体、国家(政府)、国際機関などのアクターに注目しながら国際関係についての基礎知識の幅を広げる。

4. 「国際コミュニケーション力」の涵養

「使える英語」とともに多文化社会における「理解」及び「協働」を自らのものとするためには、コミュニケーションの能力はすべての基本となることから、2年次においてさらにその技能を様々な側面から高めていくことが重要です。「国際コミュニケーション力」を継続的に養成し向上させるために、必修の英語科目以外にも本学での学修における基本言語である日本語運用能力を、母語・外国語の別を問わず向上させ、情報分野の科目・社会科学系の科目の履修を通して、知識・技能を修得することを目的としています。

国際コミュニケーションコースを履修する学生には、多様な文化・社会に対する理解を深めることにつながる科目を中心とした履修を推奨しています。

グローバルキャリアコースを選択した学生には、ビジネスシーンで活用できる実践的なスキルを修得することにつながる科目を推奨しています。

○ 到達目標

- ①実践に役立つスキルの習得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことをさらに向上させる。
- ②様々な場面でその能力が問われる情報の収集・分析能力の向上と、受発信の実践的スキルを向上させる。
- ③日本語で他者に物事を的確かつ確実に伝えるための筋道の立て方や語彙の選択、話す状況や相手との社会的立場に基づいて判断される丁寧さといった話し方を学び、効果的かつ適切なコミュニケーション能力を身につける。
- ④言語面に見られる文化的要素や相違、それらによって起こり得る異文化間摩擦等を理解し、多文化共生社会における言語を介したインターアクションをいかに行うべきかについて自分なりに考えられるようになるとともに、コミュニケーション能力を向上させる。

5. 「国際ビジネス力」の涵養

2年次の国際ビジネス関連科目群での学修で、「国際ビジネスに対する現状を把握し、その背景にある事象との関連を知る」ための段階と位置づけています。そこで、「経済学」と「経営学」の関連性に配慮した授業を行い、国際ビジネスの現状となる知識を基礎として、関連する経済学の基礎を学修することで、知識の幅を広げて行きます。

2年次は、国際コミュニケーションコース履修者、グローバルキャリアコース履修者も経済学・経営学の基礎的な科目を重点的に学修することがのぞまれます。経済学・経営学の基礎知識をもとに、意識して世界経済の動きに目を配り、3年次からの国際ビジネス関連科目の専門学修が行えるような土台形成を行い、将来の具体的なキャリアを意識できるレベルへとつなげていくことを目標にしています。

国際ビジネス関連科目群では、経済学・経営学の基礎的な学修のため、国際コミュニケーションコース・グローバルキャリアコース履修者双方に、広く全体を理解する科目の履修を推奨しています。

国際コミュニケーションコース履修者は、将来の進路に関連する（目的別）経営学系科目の履修を推奨しています。

グローバルキャリアコース履修者は、将来の進路に関連する（目的別）経営学系科目と「国際経営論」「国際金融概論」の履修を推奨しています。

○ 到達目標

- ①経済学・経営学の関連性を意識しながら、基礎知識を広げる。
- ②国際的な経済情勢や国際ビジネスに関心を持ち、その背景にある問題を知る。
- ③国際的な経済情勢や国際ビジネスの現状と課題を広く知る。

6. 「幅広い教養」の涵養

国際理解科目群とコミュニケーション科目群における学修及び、興味に応じた共通教育科目の相乗的な学修を通して、国際学部

のDPで示す、資質、能力の一端を担う「幅広い教養」を身につけます。

国際学部の3,4年次教育

国際学部3,4年次の教育は、学生が学修内容を「理解し意見をもつ」、そして「行動（研究）する」よう、これまでに修得した知識のさらなる拡充・深化を図り、主体的に応用することができるようになることを目標とします。具体的には、各自の学修および海外現地での体験に基づいた課題の発見力・分析力を修得し、能動的にその課題に向けて自ら考え、取り組む姿勢を身につけます。そのため、多角的な視点・専門知識を応用するための学修を行い、発展的な専門知識をふまえ、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を拡充させ、最終的な到達目標として学位授与の方針（DP）の実現を目指します。

1.「国際協働力」の涵養

「国際協働力」に関しては、主に「演習科目」、「留学・体験科目」、「国際キャリア科目」を中心に学修し、下記の到達目標を掲げています。

○到達目標

- ①培ったアカデミックスキルを活かし、先行研究の調査のうえに、自身の考えをまとめ、卒業研究を完成させることができる。
- ②複数国・複数回の多様な海外体験・留学を基に、異なる価値観や文化的背景をもつ他者への理解をもち、共同することができる。
- ③修得した知識を主体的に応用し、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を拡充させ、それぞれの課題に取り組む。
- ④課外講座や国内・海外インターンシップなどに積極的に参加し、自身が思い描く国際キャリアの実現を目指す。

2.「国際理解力」の涵養

「国際理解科目群」の学修を通じて、3,4年次においては、1,2年次を通じて修得した知識をさらに拡充する（インプット）のみならず、そうした国際理解に係る知識を各々が所属するコースにおける学修に応用して、自分なりに問題提起した上で、先行研究を分析し、持論を展開する作業（アウトプット）を行うことを目標とします。

「国際コミュニケーションコース」を履修する学生には、多文化共生、比較文化、地域研究、国際法、国際社会、歴史などについての専門知識を学修し、国際交流を推進する過程において生じ得る課題とその対応について深く検討する科目を中心とした履修を推奨しています。

「グローバルキャリアコース」を履修する学生には、政治地理、国際機構、比較税制、社会保障、都市計画、市民社会などについての専門知識を学修し、国際ビジネスに従事する際に対処すべき課題について深く検討する科目を中心とした履修を推奨しています。

○到達目標

- ①グローバル課題に関する定説に疑問を抱くのみならず、それを発展させて自分なりの問題提起が行えるようになる。
- ②修得した課題発見力・分析力・問題解決力を活用し、それぞれの所属するコースの専門分野におけるグローバル課題に関する先行研究を分析し整理することができるようになる。
- ③フィールド・プロジェクト、留学、インターンシップなど、1年次からの様々な機会における海外体験・異文化交流を通じて得た国際理解を踏まえ、自らの見解を持ち、発信することができる。
- ④自己実現の方途を見定め、就業を含む進路について自発的に決定し、行動することができる。

3.「国際コミュニケーション力」の涵養

「コミュニケーション科目群」の学修を通じて、これまで修得した言語やメディア、情報の知識及び、英語や日本語によるコミュニケーションやICT活用のスキル等に基づき、様々な情報収集・分析能力を活用し、自らの判断で、自身を含め、取り組んでいるテーマを効果的にアピールすることを目的とした構成・発信の能力の発展と応用できる実践能力を身につけることを目指します。

「国際コミュニケーションコース」を履修する学生には、多様な文化・社会に対する理解を深めることにつながる科目を中心とした履修を推奨しています。

「グローバルキャリアコース」を履修する学生には、ビジネスシーンで活用できる実践的なスキルを修得することにつながる科目を推奨しています。

○到達目標

- ①実践に役立つスキルの修得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを駆使して、他社とのコミュニケーションを円滑に行える。
- ②情報の収集・分析能力と、受発信の実践的スキルをさらに向上させ、社会で必要とされるICT利活用能力を身につける。

③様々な事柄に関する自らの考えや主張を、筋道を立てて的確に伝えることができるコミュニケーション能力と文章表現能力を身につける。

④国際的なビジネスの現場で、異文化理解に基づき、プレゼンテーションや交渉を行うことができる素地を身につける。

4.「国際ビジネス力」の涵養

「国際ビジネス関連科目群」の学修を通じて、課題解決能力を高め、社会人として必要な心得や進路に関する専門知識を拡充させます。具体的には、経済学分野では、海外の地域に的を絞った経済情勢の把握をするための学修を行い、経営学分野では、観光分野と国際商取引分野を中心に将来進路に関連した内容を学修することで実践的な知識を修得します。

経済学・経営学の幅広い学修のため、「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」履修者双方に、広く全体を理解する科目の履修を推奨しています。

○到達目標

- ①経済学・経営学の分野から専門知識の理解を深める。
- ②各国の経済情勢や国際ビジネスの専門分野の課題解決を検討する。
- ③進路に関する専門知識を拡充とビジネスに必要な知識を深める。

5.「幅広い教養」の涵養

1,2年次に引き続き、国際理解科目群とコミュニケーション科目群における学修及び、興味に応じた共通教育科目の相乗的な学修を通して、国際学部のDPで示す、資質、能力の一端を担う「幅広い教養」を身につけます。

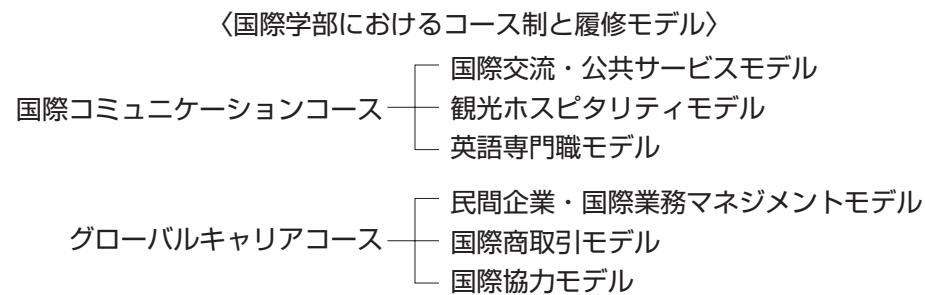
国際学部2年次以降の学生は「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」のいずれかを選択して属することになります。

各コースではそれぞれ3つの履修モデルを明示し、卒業後の進路を見据えた段階的かつ体系的な学修を行うように履修指導を行います。各科目は、段階的・体系的な学修を進めることができるように配当年次が定められていますが、履修モデルに沿った学修により、学生は段階的に学修を進めることができます。

すべての履修モデルは、本学部の養成する人材像に基づき、「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」、「国際協働力」の4つの能力を学生に身につけさせることを共通の基本としています。

まず、「専門基礎科目」の履修を通じて「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」に関する基礎的な知識及び能力を、また演習科目、キャリア形成科目、1年次の留学・体験科目の履修により「国際協働力」に関する基礎的な知識及び能力を修得します。加えて、「共通教育科目」の履修を通じて幅広い教養を身につけます。

このようにして、いずれの履修モデルを選択しても、養成する人材像に共通した基礎的な素養を修得できるようになっています。その上で、主に専門発展科目の履修をモデルに対応して行い、それぞれのモデルが想定する進路において重点的に求められる知識及び能力を修得します。



(1) 国際コミュニケーションコース

－英語を中心に学び、国際感覚を有する人材を養成する－

国際コミュニケーションコースの目標

国際コミュニケーションコースは、世界の様々な国や地域の多様なバックグラウンドを持った人々と協働し、多様な価値観を尊重しつつ、異なる文化や社会の中で問題解決を図ることができる国際感覚を有する人材となるための履修モデルであり、主に「コミュニケーション科目群」の科目を履修することで、異文化に対する理解と多文化共生を育む人材の養成を目指し、世界各国・地域の文化、歴史と、現代の社会事情に精通した能力を身につけることを目標としています。

想定される（目標とする）進路と履修モデル

想定される（目標とする）進路は、国際交流業務を担当する地方公務員や民間団体（NPO・NGO等）、運輸業・航空業界、旅行業・ホテルなどのホスピタリティ業界、国際秘書、通訳案内士、翻訳業ほか英語の専門サービス業や企業・団体で高度の英語能力が要求される業務の担当者です。

【履修モデル】

①国際交流・公共サービスモデル ②観光ホスピタリティモデル ③英語専門職モデル

国際コミュニケーションコースの特色

英語や日本語等の言語を中心的に学修することを通じ、その背景にある文化や思想、考え方を理解し、英語等の言語をツールとして、グローバル社会で活躍できる能力や素養を身につけます。

- 1) 多彩な留学・海外体験と合わせて英語運用能力を高める。
- 2) 自己表現力、意思疎通力、交渉・合意形成力等を身につける。
- 3) 異文化に対する適応力や好奇心・積極性を高める。

(2) グローバルキャリアコース

－異文化を理解し、国際ビジネスに対応できる柔軟な人材を養成する－

グローバルキャリアコースの目標

グローバル化する現代社会の諸課題を、歴史・文化、経済・経営、国際関係などの多様な視点から総合的に把握する見方を有する人材となるための履修モデルであり、主に「国際ビジネス関連科目群」の科目の履修することで、経済・経営を中心とする知識や素養に加え、ビジネス法学、世界情勢や国際関係のほか、異文化に対する理解等を前提とする広い教養を兼ね備え、主にビジネスの国際的展開に貢献できる人材を育成することを目標としています。

想定される（目標とする）進路と履修モデル

想定される（目標とする）進路は、外資系企業や海外支店勤務を含む民間企業の国際業務担当者、商社・貿易会社で国際商取引に携わる人材、政府系援助機関や国際機関の職員です。

【履修モデル】

①民間企業・国際業務マネジメントモデル ②国際商取引モデル ③国際協力モデル

グローバルキャリアコースの特色

異文化に対する理解をもとに、経済学・経営学の基礎的な知識や経済学的な思考を学修し、グローバルビジネスの実務関連知識を加えることで、ビジネスの現場で求められる柔軟な思考方法を学びます。

- 1) 海外体験でコミュニケーション能力を高める。
- 2) プレゼンテーション、ディベート、ビジネス交渉力を身につける。
- 3) インターンシップ等を通して、より実践的な就業力を身につける。

(3) 国際コミュニケーションコース・履修モデル推奨科目一覧

①国際交流・公共サービスモデル（国際交流業務を担当する地方公務員や民間団体（NPO・NGO）などの職員）

	1年次			2年次				3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休		春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解Ⅰ 世界史概論Ⅰ 市民社会と法 Intensive English W/RⅠ※1 Intensive English L/SⅠ※1 Exam Prep.Ⅰ コミュニケーション論 日本経済入門	異文化理解Ⅱ 世界史概論Ⅱ Intensive English W/RⅡ※1 Intensive English L/SⅡ※1 Exam Prep.Ⅱ ことばと文化 世界経済入門											
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論 NPO・NGO論 地方自治と国際協力	比較文化論 国際社会と人の移動			多文化共生社会論			現代中国事情 都市計画の国際比較		Regional Studies (Asia)
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/RⅠ※2 Advanced English L/SⅠ※2 日本語文章表現Ⅰ 情報セキュリティ論 Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ※2 Advanced English L/SⅡ※2 日本語文章表現Ⅱ グローバル化とメディア 異文化コミュニケーション Exam Prep.Ⅳ			翻訳実践 プレゼンテーション実践 Exam Prep.Ⅴ	ディベート実践 Exam Prep.Ⅵ		Current Affairs 観光英語		
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）					経済政策概論			中国経済論 国際観光論			ホスピタリティ論	Tourism and World Heritages	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB			専門演習ⅡA	専門演習ⅡB		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ										
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B				
共通教育科目	文章表現入門	地理学		日本国憲法	日本近現代史			環境と社会	海運と港湾 ビジネスリテラシー				

②観光ホスピタリティモデル（運輸業・航空業界、観光・旅行業界、ホテルなどのホスピタリティ業界）

	1年次			2年次				3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休		春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解Ⅰ 日本史概論Ⅰ 世界史概論Ⅰ Intensive English W/RⅠ※1 Intensive English L/SⅠ※1 Exam Prep.Ⅰ コミュニケーション論 情報リテラシーⅠ 日本経済入門	異文化理解Ⅱ 日本史概論Ⅱ 世界史概論Ⅱ Intensive English W/RⅡ※1 Intensive English L/SⅡ※1 Exam Prep.Ⅱ ことばと文化 世界経済入門											
専門発展科目 （国際理解科目群）				日本文化論 国際関係論	Japanese Geography 国際社会と人の移動				現代アメリカ事情				
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/RⅠ※2 Advanced English L/SⅠ※2 日本語文章表現Ⅰ メディア論 Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ※2 Advanced English L/SⅡ※2 日本語文章表現Ⅱ 異文化コミュニケーション Exam Prep.Ⅳ			Business CommunicationⅠ 観光英語 Exam Prep.Ⅴ	Business CommunicationⅡ Exam Prep.Ⅵ		翻訳実践 プレゼンテーション実践	ディベート実践	
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				観光概論	観光資源論			国際観光論 ホスピタリティ論	航空実務				
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB			専門演習ⅡA	専門演習ⅡB		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ			フィールド・プロジェクトⅡ							
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B	海外インターンシップ			
共通教育科目	文章表現入門 地域文化論	心理学 地理学		現代社会学	社会学			地球と環境					

③英語専門職モデル（国際秘書、通訳案内士、翻訳業ほか英語の専門サービス業や企業団体で高度の英語能力が要求される業務の担当者）

	1年次			2年次				3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休		春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解Ⅰ 日本史概論Ⅰ Intensive English W/RⅠ※1 Intensive English L/SⅠ※1 Exam Prep.Ⅰ コミュニケーション論 情報リテラシーⅠ 日本経済入門	異文化理解Ⅱ Intensive English W/RⅡ※1 Intensive English L/SⅡ※1 Exam Prep.Ⅱ ことばと文化 世界経済入門											
専門発展科目 （国際理解科目群）				Japanese Society 国際関係論	Japanese Culture	Japanese History							Regional Studies (Asia)
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/RⅠ※2 Advanced English L/SⅠ※2 日本語文章表現Ⅰ Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ※2 Advanced English L/SⅡ※2 日本語文章表現Ⅱ Exam Prep.Ⅳ			Academic WritingⅠ Business CommunicationⅠ 翻訳実践 Exam Prep.Ⅴ	Academic WritingⅡ Business CommunicationⅡ Exam Prep.Ⅵ		Comprehensive EnglishⅠ 観光英語	Comprehensive EnglishⅡ	
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）					国際経営論			Japanese Economy 国際観光論	Contemporary Economic Issues			Tourism and World Heritage	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB			専門演習ⅡA	専門演習ⅡB		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			海外語学研修			フィールド・プロジェクトⅠ							
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B	海外インターンシップ			
共通教育科目	文章表現入門	現代社会学		現代社会とビジネス	言語学			人権の諸問題	環境と生態		環境と経営		

※1 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。
※2 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

(4) グローバルキャリアコース・履修モデル推奨科目一覧

①民間企業・国際業務マネジメントモデル（外資系企業、海外支店勤務を含む民間企業の国際業務を担当するビジネスパーソン）

	1年次			2年次				3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休		春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解Ⅰ Intensive English W/RⅠ※1 Intensive English L/SⅠ※1 Exam Prep.Ⅰ コミュニケーション論 情報リテラシーⅠ 日本経済入門 経営学概論	異文化理解Ⅱ Intensive English W/RⅡ※1 Intensive English L/SⅡ※1 Exam Prep.Ⅱ ことばと文化 世界経済入門 国際ビジネス概論											
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論	比較文化論			現代中国事情 現代東南アジア事情			比較税制論		
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/RⅠ※2 Advanced English L/SⅠ※2 日本語文章表現Ⅰ Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ※2 Advanced English L/SⅡ※2 日本語文章表現Ⅱ ビジネスアプリケーション Exam Prep.Ⅳ			Business CommunicationⅠ Exam Prep.Ⅴ	Business CommunicationⅡ Exam Prep.Ⅵ				
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				比較経済論 経営管理概論 会計学概論	経営戦略論 国際経営論			税法 国際取引と法（契約と決済）	国際会計論 経営情報概論 国際取引と法（紛争処理）		Japanese Economy 中国経済論	東南アジア経済論 Contemporary Economic Issues Business Management	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB			専門演習ⅡA	専門演習ⅡB				
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ										
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
共通教育科目	文章表現入門	日本近現代史 心理学		現代社会とビジネス	社会学			環境と経営	ビジネスリテラシー				

②国際商取引モデル（商社などで国際取引業務を行う人材、貿易実務を専門的に担当する人材、JETRO、貿易のアドバイザー、通関士など）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解Ⅰ 日本史概論Ⅰ 世界史概論Ⅰ Intensive English W/RⅠ※1 Intensive English L/SⅠ※1 Exam Prep.Ⅰ 日本経済入門 経営学概論	異文化理解Ⅱ 日本史概論Ⅱ 世界史概論Ⅱ Intensive English W/RⅡ※1 Intensive English L/SⅡ※1 Exam Prep.Ⅱ 世界経済入門 国際ビジネス概論												
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論	宗教学			現代中国事情	現代アメリカ事情 現代中東事情					
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/RⅠ※2 Advanced English L/SⅠ※2 Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ※2 Advanced English L/SⅡ※2 Exam Prep.Ⅳ			プレゼンテーション実践 Exam Prep.Ⅴ	ディベート実践 Exam Prep.Ⅵ					
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				日本経済論 世界経済論 会計学概論 マーケティング論	国際経済学概論 国際金融概論 流通システム論 国際経営論			外国為替論 貿易商務論 国際取引と法（契約と決済）	アメリカ経済論 国際取引と法（紛争処理）		中国経済論 貿易金融論			
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB			専門演習ⅡA	専門演習ⅡB			専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ											
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B	インターンシップ				
共通教育科目	文章表現入門	心理学		現代社会学				環境と経営 環境と社会	海運と港湾			地球と環境		

③国際協力モデル（経済協力分野の国際機関、政府系機関および民間団体（NPO・NGO含む）職員など）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解Ⅰ 日本と国際法 Intensive English W/RⅠ※1 Intensive English L/SⅠ※1 Exam Prep.Ⅰ 日本経済入門 経営学概論	異文化理解Ⅱ 国際社会と法 Intensive English W/RⅡ※1 Intensive English L/SⅡ※1 Exam Prep.Ⅱ 世界経済入門												
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論 NPO・NGO論								国際協力法	国際機構論	Regional studies (Asia)
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/RⅠ※2 Advanced English L/SⅠ※2 日本語文章表現Ⅰ Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ※2 Advanced English L/SⅡ※2 日本語文章表現Ⅱ Exam Prep.Ⅳ			Exam Prep.Ⅴ	Exam Prep.Ⅵ					
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				日本経済論 世界経済論 比較経済論 経営管理概論	経済政策概論 国際経済学概論 国際金融概論			Japanese Economy 国際取引と法（契約と決済）	東南アジア経済論 Business Management 国際取引と法（紛争処理）		中国経済論 医療ビジネス論	Contemporary Economic Issues		
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB			専門演習ⅡA	専門演習ⅡB			専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ			フィールド・プロジェクトⅡ								
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B					
共通教育科目	文章表現入門	西洋史 地理学			日本近現代史			人権の諸問題 環境と社会	ビジネスリテラシー					

※1 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語4」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。
※2 ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、「日本語5」、「日本語6」、「日本語7」、「日本語8」の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。

国際学部における英語教育は、言語学としての専門性の修得を目的とするのではなく、英語を用いて国際社会の様々な場面において必要なコミュニケーションを図ることができる実践的な活用力を重視します。

国際的なビジネス社会では、交渉・契約等にあたって、英語を基本言語として使用するのが通例であり、事業のグローバル化を進める日本企業が採用・昇格にあたって英語運用能力をより重視するようになっていきます。このような観点から、国際的なビジネス・市民社会で活躍するグローバル人材を養成することを目的とする国際学部においては、「使える英語力」を学生に修得させるべき必須の能力としています。

国際学部における英語教育は、1・2年次は、習熟度別に編成された少人数クラスにおいて、英語ネイティブ教員と日本人教員が協働して教育に取り組み、学生に英語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）をバランスよく身につけさせるとともに、1年次の早期から実施する多彩な留学・海外体験と合わせて英語運用能力を高めます。

また、TOEIC® やTOEFL® 等の英語能力試験の対策科目を1・2年次に配置し、卒業までに標準目標とするTOEIC® スコア600（使える600）取得の基礎となる英語運用能力を鍛えます。

3年次以降は、より高度な英語運用能力の獲得をめざし、コンテンツ・ベースドの英語教育科目を開設するほか、英語で学修する専門講義科目や演習科目を設置し、語学力をさらに高め、発展学修目標であるTOEIC® スコア730に挑みます。国際学部では「使える英語力」の修得に注力し、その客観的な評価の指標として、標準学修目標TOEIC® スコア600、発展学修目標TOEIC® スコア730を設定しています。

「使える600」とは、TOEIC® スコアはもとより、国際学部で学んだ知識と実際に体験したことを自分の言葉で表現・発信できることを意味します。したがって、英語教授の際には、「世界を知る力」の涵養と「留学・体験科目」への参加による実体験の積み重ねを念頭に置きそれらを組み合わせ、英語力の向上とアクセスできる知識の深さとが「比例」し、相互に刺激しながら向上と深化が達成できる教育を実施します。そのためにも、国際学部教育初年次の「コアとなる科目」である「基礎演習A」と「基礎演習B」との連携を強め、質の高い「英語教育+専門知識修得+実体験」を通じた学生の「国際性」涵養に注力します。

(1) 英語教育の考え方

国際学部では、すべての機会と手段を駆使して総合的英語力の向上を図ります。英語・専門授業等の正課、日常的交流や学修イベント、また、日本国内や海外での体験・留学等、関連するすべてを連携させた英語教育を実施します。本学部における英語教育は、学修空間並びに役割が異なりながらも、相関関係を有するあらゆる学修を不可分に調和させ、英語力の向上をトータルに進めます。

英語運用能力に関しては、英語の全てのスキルを基礎から徹底的に学び、反復して修得します。あえて「基礎」にこだわる理由は、「基礎」の修得と定着こそが、生涯にわたる英語力の向上を担保するからです。英語の修得に奇策やショートカット（近道）はなく、教室やキャンパスの中と外、日本の中と外、あらゆる機会と手段を活用して、基礎から応用までの体系的な学びを経て、グローバル社会で使える英語力、生涯にわたって成長し続ける「英語の体幹」を鍛えます。

(2) 英語運用能力の到達度指標（TOEIC®）

国際学部では、正課の英語授業における学修到達度を期末テストの成績などによって評価し単位認定しますが、成績評価とは別に、TOEIC® スコアを一般的なビジネス英語運用能力の指標としてとらえ、教員と学生自身が学修目標達成の目安として使用します。

それによって、学生が一定のTOEIC® スコア達成にチャレンジし、将来のキャリアに向けより高い目標をもって自らを磨いていく機会とします。

1. 学部標準目標

英語運用能力に関しては、個々の学生の習熟度に応じたクラス編成を基本とし、より実践的な英語運用能力を修得させることをめざします。学部全体としては、TOEIC® スコア600が標準到達目標です。

TOEIC® スコア600とは、通常会話の要点を理解し就業に参加可能な能力を持つことを示し、同時に日本の企業がグローバル化に対応するための社員の英語運用能力として求める平均的スコアでもあります。国際学部の英語教育は、卒業時に英語を用いてビジネスの現場や生活に積極的に参加できる実践的な英語運用能力を身につけ、グローバルに活躍できる社会人を養成することに主眼を置き、TOEIC® スコア600を標準到達目標と設定しています。

2. 発展的学修目標

国際学部では、標準到達目標であるTOEIC® スコア600を達成した学生には、商社や企業の海外部門が求める、より高度で実用的なビジネス英語を修得した人材の指標とされているTOEIC® スコア730以上を発展的学修の目標とします。

この目標達成に向け、ネイティブ教員が、聴解能力、口頭表現の教育に携わり、英語圏で学位を取得、または、英語圏に留学経験のある日本人担当教員が文章表現、読解を担当し、ネイティブ教員と日本人教員が協力して英語の技能教育を行います。

週4日の英語必修科目を2年間通して学修することに加え、「Exam Prep. I」～「Exam Prep. VI」などのTOEIC® やTOEFL® の英語能力検定に向けた実践的な対策科目や、英語による講義科目を履修するほか、3年次以降に設置する高度の英語科目を継続的に履修することにより、TOEIC® スコア730以上の実現を目指します。

上記の学修目標の達成に向けて、国際学部では、TOEIC® IPを受験する機会を複数回設け、受験を推奨し、学修目標の達成度を測ります。

国際学部では、大学での専門教育科目・共通教育科目の理論と知識を学び理解すること、そして日本国内での就職や大学院進学など志望進路に進むことができるよう、みなさん一人ひとりの日本語能力のレベルに合わせて着実に日本語能力を上げるためにサポートします。また、日本語を身につけた上で、さらに英語の学修にチャレンジすることも可能です。日本語と母語を使いこなして活躍する人材、あるいは英語も含めた三言語を使いこなして活躍する人材を目指していきましょう。

(1) まずは日本語能力試験(JLPT)のN1をとろう！

留学生のみなさんが日本での専門教育科目・共通教育科目を学ぶためには、少なくとも日本語能力試験(JLPT)N2以上の日本語能力が必要とされます。また、卒業後に大学院への進学を志望する留学生のみなさんは、さらに高度で専門的な日本語能力が求められることはいうまでもありません。

卒業後、学部で学んだ専門知識と日本語能力を活用して、日本で就職してキャリアを切り拓こうという留学生もたくさんいると思います。日本で就職するためには「読む・書く」力も必要ですが、特に「聞く・話す」力が求められます。日本語能力試験(JLPT)N1の日本語能力を身につけ、ビジネスマナーを含め、企業で求められる日本語コミュニケーション能力を身につけられるよう、日本語学修、専門演習や講義での学修、「国際キャリアデザイン演習」の履修などに取り組んでください。

(2) 留学生用の日本語関連科目

日本の大学で充実した学生生活を送るためには、大学で豊かな人間関係を築くために必要な日本語と、専門書を読んだり、講義を聞いたり、日本語で考え、議論に参加するために必要な日本語を身につけていくために、次のような科目があります。

科目	目標レベル
日本語1・2	・言語の四技能（読む、書く、聞く、話す）すべての向上を目指します。
日本語3・4	・大学で豊かな人間関係を築くために必要な日本語を学修します。
日本語5・6	・レベルに応じて、N1やN2の合格を目指します。
日本語7・8	・レベルが上がると大学での専門科目の学修に必要な日本語能力の向上を目指した学修もします。
コミュニケーション技法Ⅰ	・講義を聞いたり、日本語で考え、議論に参加するために必要な日本語を身につけていきます。
コミュニケーション技法Ⅱ	・人間関係や状況を踏まえた適切な話し方を身につけていきます。
日本語文章表現Ⅰ（留学生用）	レポートを書くことに特化した授業を行います。
日本語文章表現Ⅱ（留学生用）	

日本語1～8は、習熟度別（レベル別）のクラス分けをして、適切な難度の内容を学修します。1年生は入学時のプレースメントテスト結果に基づいて、履修する科目とクラスを指定します。

(3) 日本語科目の履修モデル

①日本語能力試験N3程度の留学生の場合：2年間かけて大学での学修に必要な日本語も身につけながらN1レベルを目指します。

1年生春	1年生秋	2年生春	2年生秋	3年生春	3年生秋
日本語1・2	日本語3・4	日本語5・6	日本語7・8	コミュニケーション技法Ⅰ 日本語文章表現Ⅰ	コミュニケーション技法Ⅱ 日本語文章表現Ⅱ

②日本語能力試験N2程度の留学生の場合：1年間かけて大学での学修に必要な日本語も身につけながらN1レベルを目指します。

1年生春	1年生秋	2年生春	2年生秋
日本語1・2	日本語3・4	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ コミュニケーション技法Ⅰ 日本語文章表現Ⅰ	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ コミュニケーション技法Ⅱ 日本語文章表現Ⅱ

N1の学修まで進んだら、英語の学修にもチャレンジして、三言語を使いこなす人材を目指していきましょう！

③日本語能力試験N1相当の留学生の場合：日本語能力を総合的に高めます。

1年生春	1年生秋	2年生春	2年生秋
Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ コミュニケーション技法Ⅰ 日本語文章表現Ⅰ	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ コミュニケーション技法Ⅱ 日本語文章表現Ⅱ

ぜひ英語の学修にチャレンジして、三言語を使いこなす人材を目指していきましょう！

(4) 日本語能力試験対策講座を実施します。

日本語能力試験対策講座を資格講座として実施しています。ぜひ対策講座を受講し、日本語能力試験の合格をより確かなものとしてください。詳細は改めて案内しますので、確認してください。

(5) 国際教育交流センターも活用しよう

国際教育交流センターには、日本語学修の教材を豊富にそろえられています。また日本語の教員も国際教育交流センターで「オフィスアワー」を実施しており、日本語学修のアドバイスも受けられます。

また、日本人の学生と話す「ぺちゃくちゃタイム」などの日常的なイベントも行われています。積極的に機会を活用して、日本語の能力をどんどん上げていきましょう。

(6) 日本で就職を希望するなら「国際キャリア開発A・B（履修指定科目）」「国際キャリアデザイン演習A・B」「国際キャリア演習A・B」を履修しよう

日本で就職を希望する留学生のみなさんが必ず知っておかなければならないことは主に4つあります。

①日本の文化やビジネス習慣を知ろう

それぞれの国にはそれぞれの文化やビジネス習慣があります。自分の文化と異なる文化の中で働くとき、自分の考え方とは違うことに困惑したり、憤りを感じることもあるでしょう。しかし、文化によってどんな違いがあるのか知っておいたり、日本ではどのように働いているのか、外国の人と日本人が一緒に働いたときに起こるトラブルにはどのようなものがあるのか、どう対処したらいいか考えることができれば、解消できることも多いのです。

②日本は「新卒一括採用」のため、3年生の時から就職活動の準備が必要

「新卒一括採用」とは企業が卒業予定の学生「新卒者」を対象に年度ごとに一括して求人し、在学中に採用試験を行って内定を出し、卒業後すぐに勤務させるという日本の独特の雇用慣行です。このように日本の企業の採用活動は大学を出たばかりの新卒学生を重視する傾向にあります。また採用活動は一定の期間に集中しその他の時期には採用をあまり行いません。

このため卒業後日本の企業で働きたいのであれば、このスケジュールの流れを知り、大学3年生の時から就職活動に向けて準備をすることが必要です。4年生には学業と並行しながら就職活動を行い、10月までに内定を獲得して進路決定できるよう、計画的に進めることが求められます。

③日本語能力試験N1程度の日本語能力が必須、英語もできるとさらに強みになる！

日本で仕事をする場合、日本語でのコミュニケーション能力が絶対条件です。この条件を満たすには学生の時から日本語能力試験（JLPT）N1の日本語能力を習得する必要があります。また留学生を採用する会社の多くは、諸外国に事業を展開している会社が多く、英語の能力も求める会社が多いです。英語ができると、さらに選択肢が広がります。

④卒業後は在留資格変更が必須

みなさんが持っている在留カードまたは外国人登録証明書に記載されている在留資格は「留学」となっていますが、このままでは卒業後日本に在留することができません。留学生のみなさんが日本国内の企業に就職し、引き続き日本に在留することを希望する場合は、「出入国及び難民認定法」に定める手続により、卒業後に留学から「技術・人文知識・国際業務」など、就労できる在留資格への変更手続を必ず行わなければなりません。

以上4つのことについて確実に学ぶため、1年生には「国際キャリア開発A・B」が履修指定科目となっています。2年生には「国際キャリアデザイン演習A・B」、3年生には「国際キャリア演習A・B」という授業を用意しています。日本での独特の雇用環境を理解し希望する業界や企業への就職を実現するため、ぜひ履修してください。

本学の国際教育プログラムは、グローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材の育成を図るため、学生のグローバル化への対応力を段階的に強化することを目的として実施されてきました。そのため、＜ステージ1＞には、成長を支えるモチベーション形成と海外への心理的障壁の克服を主な目的とする海外協定校あるいは提携機関における短期の語学研修と体験型プログラムを、＜ステージ2＞には、英語運用能力とコミュニケーション能力の集中的な学修を目的とする英語圏1セメスター留学を、＜ステージ3＞には、専門学修と希望進路の実現に資する難易度の高いプログラムを配置しています。

本学における海外留学及び海外体験は、言語運用能力の向上はもとより、異なる文化や言語をもつ人々との言語あるいは非言語によるコミュニケーションという主体的な活動の場を提供するためのものです。学修、交流など、学生たちの主体的な活動への参加を促し、言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することを重要目的としています。英語をはじめとする外国語が生活の中で使用されている国・地域での学修と生活、そこでの種々の活動と実体験は、国際理解を深め、国際性を養うという点で意義をもっています。

- ア) 留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトⅠ」の、いずれか1科目を選択必修（1年次履修）とします。
- イ) 1年次の「海外語学研修」あるいは「フィールド・プロジェクトⅠ」を通して発見した課題に更に取り組むため、2年次以降において、留学・体験科目の「フィールド・プロジェクトⅡ」に参加することを推奨します。
- ウ) 学生の希望進路や関心に合わせて、より発展的なプログラムである海外協定校における英語圏1セメスター留学、海外協定校との半年ないし1年の交換留学を効果的に活用します。

(1) 海外語学研修

1. 概要

アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの海外協定校での4週間の英語研修です。事前学修（6時間：2時間×3回）、海外現地での英語授業（80時間）、事後学修（4時間：2時間×2回）、で構成されます（学修時間：計90時間）。単位は2単位です。

2. 目的

英語の4技能（文章表現・読解・聴解・口頭表現）について集中的に学び、英語運用能力を高めることを目標とします。また、海外での生活、社会・文化体験、学生や市民との交流などを通じて、異文化への理解を促進し、学修動機の向上を図ります。

3. 研修先

詳しくは、国際教育交流センターの留学に関する資料を参照してください。

4. 実施時期

夏季の休業期間中に実施します。一部は春季の休業期間中に実施することがあります。

(2) フィールド・プロジェクトⅠ・Ⅱ

1. 概要

海外における約1週間のプロジェクト研修であり、担当教員が引率します。事前学修（12時間：2時間×6回）、出発前合宿（16時間）、海外現地研修（56時間：8時間×7日間）、事後学修（6時間：2時間×3回）で構成されます（学修時間計90時間）。単位は2単位です。

いずれの研修先についても、プログラムは、英語（一部、現地語も含む）の授業、研修国・地域に関する講義、学生や市民との交流、ボランティア活動などで構成されます。

2. 目的

① フィールド・プロジェクトⅠ

この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約1週間の体験・研修から構成されます。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とします。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の向上を図ります。

(1) インターンシップ

国際学部は、「専門教育科目」の「キャリア形成科目」において「インターンシップ」として単位認定（2単位）を行い、キャリア教育における重要な科目として位置付けています。

インターンシップ参加者は、毎年、企業をはじめ地方公共団体や非営利法人、法律事務所、会計事務所、議員事務所等、多岐にわたる事業所へ派遣されます。

実習の概要

実習生は受入事業への派遣前に、ビジネスマナーと業界理解に関する事前研修に参加し、実習先で求められる基本的ビジネススキルを培います。実習生は、実習期間中、事前研修、実習内容で学んだことや今後の課題等を「業務日誌」に毎日記入し、受入事業所へ提出します。

実習終了後、受入事業所は実習生の「評価報告書」を大学に提出し、実習生は「体験レポート」を大学に提出することになっています。さらに、実習生は後日開催される「インターンシップ体験報告会」に参加し、インターンシップの成果について、発表を行います。

(2) 海外インターンシップ

国際学部では、本学学生のインターンシップ受入実績がある海外の企業を中心として、2週間程度の海外インターンシップを提供します。

実習の概要

実習生は受入事業への派遣前に、ビジネスマナーと業界理解に関する事前研修に参加し、実習先で求められる基本的ビジネススキルを培うとともに、渡航先の政治・経済事情、文化、歴史などの講座を受講し、渡航先の社会全般に関する基本的理解を深めます。

実習生は、実習期間中、事前研修、実習内容で学んだことや今後の課題等を「業務日誌」に毎日記入し、実習終了後、「業務日誌」とともに「体験レポート」を大学に提出することになっています。さらに、実習生は後日開催される「インターンシップ体験報告会」に参加し、海外インターンシップの成果について、発表を行います。

Ⅱ キャリア形成支援プログラム

■キャリア形成のための科目

■キャリア形成支援プログラムの全体像

■公務員試験対策について

■ダイバーシティプログラム

■国際学部特別プログラム

■Athlete Career Program

■就活シリーズ講座

■就活実践 Camp

キャリア形成支援プログラム

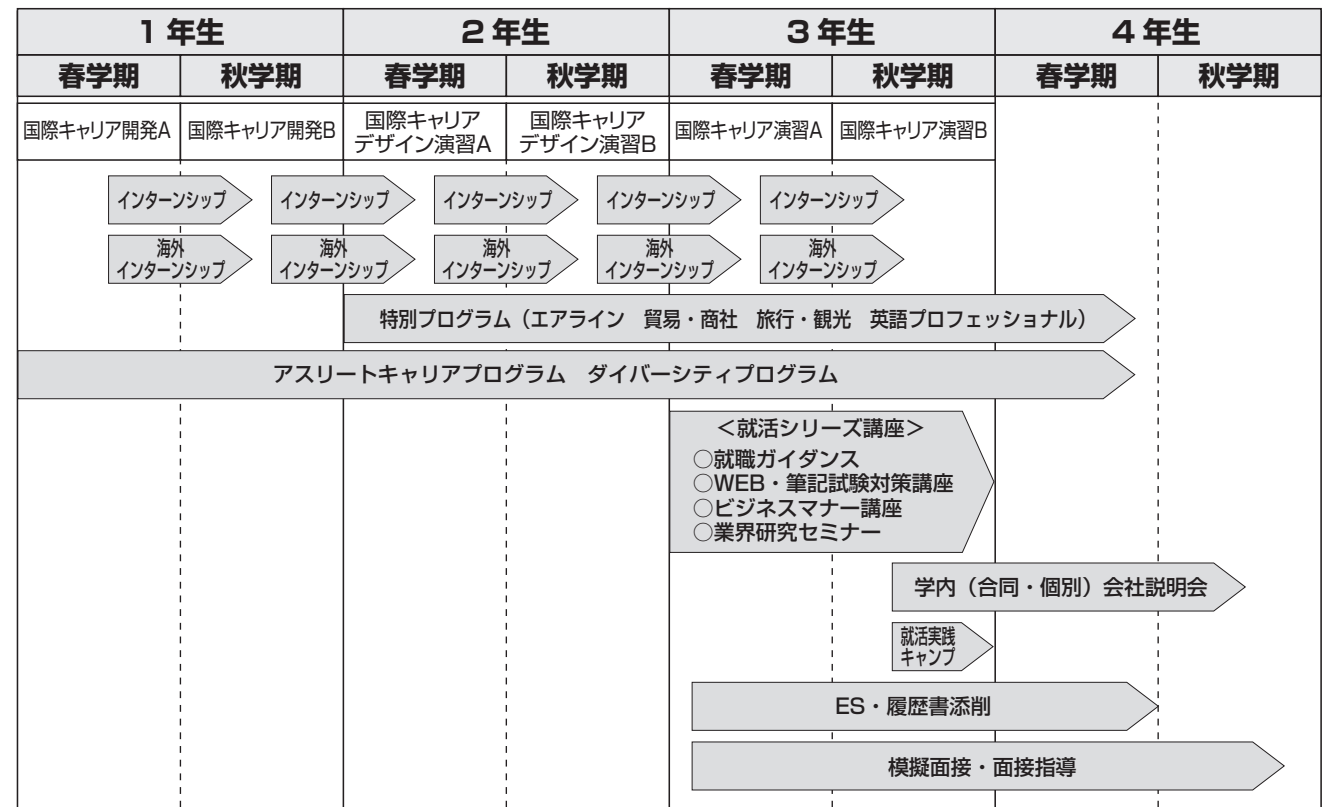
(1) キャリア形成のための科目

国際学部では、「キャリア形成科目」を設定し、4年間を通じた段階的・体系的なキャリア教育を行い、国際コミュニケーション力と国際協働力を中心に、グローバル人材に必要な素養を涵養するとともに、社会的・職業的自立に必要な能力を養成します。「キャリア形成科目」ではグループワーク等のアクティブ・ラーニングにより、自己表現力（プレゼンテーション力）や意思疎通力をはじめとするコミュニケーション能力と協働して課題に取り組む能力の向上を図ります。

国際学部専門教育科目 キャリア形成科目	国際キャリア開発A・B、国際キャリアデザイン演習A・B、国際キャリア演習A・B インターンシップ、海外インターンシップ
------------------------	--

(2) キャリア形成支援プログラムの全体像

●キャリア支援プログラムの全体像は次のようになっています。



国際キャリア開発A・B (1年生：春・秋学期)	国際キャリア開発Aは、国際キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目です。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となります。この授業を通して、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえた、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を培います。さらに、国際学部生の卒業後の進路を見据え、グローバル人材に求められる能力と態度について理解を深めます。 【国際キャリア開発A】 国際キャリア開発Aでは、キャリアデザインを考える準備として、第1に、今、社会はどのようなになっている、今後どのように変化するかを考えること（社会に対する理解）。第2に、産業や企業のあり方とその変化（産業と企業についての理解）。そして第3に、それらの中で人々の働き方はどのようなになっているのかをしっかりと理解すること（職業についての理解）について理解を深めます。そして、国内外の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識することを目指します。 【国際キャリア開発B】 国際キャリア開発Bでは、「日本の雇用環境について学ぶ」「様々な働き方を知る」などをテーマとして、社会にどのような職業があるのかを理解した上で、各自がどのような仕事に魅力を感じているのか、それは何故なのかを考えます。また、グローバル社会で活躍する実務家を外部講師として招き、職業や仕事の内容に関する講義を行うなかで、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考えます。そのため、最新の仕事の実情を踏まえ、様々な課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成します。
----------------------------	---

国際キャリアデザイン演習 A・B (2年生：春・秋学期)	国際キャリアデザイン演習A・Bは、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目標とします。授業では、講義をベースとしながらも、ペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、「調べる」「書く」「まとめる」「話す」「伝える」「聴く」「協働する」という「7つの力」を身につけます。さらに、国際社会で活躍するために必要な「国際コミュニケーション力」と「国際協働力」を養成することで、グローバル社会における自らのキャリアデザインをイメージするための諸課題を認識できるようになります。 【国際キャリアデザイン演習A】 国際キャリアデザイン演習Aでは、自分の将来の生き方・働き方を考えるために、まず、「働くことの意味」について、他者の考えについても参考に、自分なりの考えをまとめます。次に社会人基礎力とそれを構成する3つの力、すなわち「考える力」「行動する力」「チームで働く力」について、社会人の方々の行動を観察することなどを通して理解し、表現します。そして、企業、社会の仕組みを確認しつつ、「職種」「業界」について理解し、自分の興味・関心と結びつけます。さらに、働く舞台として日本国内と海外の両方を想定し、理解を深めることで、将来の選択肢の視野を広げます。 【国際キャリアデザイン演習B】 国際キャリアデザイン演習Bでは、国際キャリアデザイン演習Aで学んだことを踏まえ、自己理解と業界理解を深めていきます。まず、「企業研究」について特定の業界の企業比較を通して業界特性や企業研究の方法を理解します。次に、自己理解にどのように向き合うかについて確認した上で、マインドマップなどのツールを用いて、自己の振り返りと自己分析を進め、理解を深めていきます。さらに、自分の強みをグローバル社会で通用する強みに練り上げ、自己PRとして完成させます。
------------------------------------	--

国際キャリア演習A・B (3年生：春・秋学期)	国際キャリア演習A・Bは、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとした「社会人へのステップ」となる科目です。この科目では、主に「自己分析」「業界・企業研究」「志望動機構築」の順に、演習の特性を活かしたグループワークを中心に授業を進めていきます。自己を客観的に捉え、論理的に表現できる力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで国際的な舞台で活躍するグローバル人材に求められる資質・能力と、自らの強みとリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を育成します。 【国際キャリア演習A】 国際キャリア演習Aでは、（1）自己のキャリア形成の流れ＝自己分析力、（2）企業分析や業界分析を通じた企業情報の読解＝業界分析力、（3）面接力向上、（4）グループワークを通じた将来の業務遂行に必要なチーム連携力、以上4つを習得することがねらいです。1人では難しい就職活動準備への強力な支援だけでなく、学生から社会人、消費側から生産側への円滑な意識転換を促進し、グローバル人材としての就業力の養成および向上をめざします。 【国際キャリア演習B】 国際キャリア演習Bでは、就職活動に際して必要となる志望動機構成力や実践力養成を行うことを目的としており、次の2点が大きな特徴です。（1）授業において双方向実践形式、課題解決型授業（PBL）を行います。例えば、グループディスカッション、集団面接、個人面接など、実際の採用試験を想定した様々な面接形式について、実践を通して学びます。（2）授業後半では、進路を決定したばかりの4年生が「キャリアアメンター」として参画します。キャリアアメンターは身近なアドバイザーとして、皆さんにとって心強い存在となっていきます。
----------------------------	--

インターンシップ (学外研修) ー就業体験ー (経済学部・法学部・国際学部 全学年)	インターンシップは、夏季休業期間（夏休み）や春季休業期間（春休み）を利用して、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うものです。実習を通じて、社会や職業への理解を深め、自己理解を深めることで、将来の進路や職業の選択に向けた就業観を養成します。事業所への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスと研修を実施し、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、約2週間程度（実働10日間）の実習を行います。実習期間終了後、参加者全体で報告を行い、体験レポートを作成することで、インターンシップの成果と課題を認識します。また、本学のインターンシップでは、地方出身者のためのプログラムや留学生対象のプログラムも取りそろえています。さらに本学では、独自のインターンシッププログラムとして、5日間業界横断プログラム、2大学合同プログラム、八尾商工会議所青年部プログラム等、多彩なプログラムを企画しており、1年生から複数回の参加を推奨しています。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で実施を見送りましたが、2019年度は、企業や地方自治体、法律事務所、会計事務所、学校、NPO法人などで約170名の学生がインターンシップに参加しました。 ○事前研修（ビジネスマナー講座・実践講座） ○事業所での実習（＝就業体験） ○インターンシップ全体報告会（夏季・春季） ※要件を満たすことで単位認定あり（詳細の問合せは八尾駅前キャンパス3階 キャリアセンターまで） ※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、実施内容が変更となる場合があります。
--	---

海外インターンシップ (経済学部・法学部・国際学部 全学年)	日本企業の海外進出など、グローバル化に対応したインターンシッププログラムとして海外インターンシップを実施しています。海外の企業で職場体験をするプログラムであり、研修先では英語や現地の言語も使用し職務を行い、派遣国での生活や人々との交流も体験できます。本学では、アメリカ・ヨーロッパ・東南アジア諸国など充実したプログラムを用意しています。 ＜主な派遣先等＞ インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ミャンマー等の東南アジア諸国に進出している日系企業での就業体験、オーストラリアでのホスピタリティ業務体験やベトナム・インドネシアに進出した日系企業十数社を見学するコースも設けています。 ※要件を満たすことで単位認定あり（詳細の問合せは八尾駅前キャンパス3階 キャリアセンターまで） ※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、実施内容が変更となる場合があります。
--------------------------------------	---

(3) 公務員試験対策について

八尾駅前キャンパス10階にある「公務就職支援室」では、公務員志望者を徹底サポートするために、以下の支援、情報発信を行っています。キャリアカウンセラーが常駐していますので、是非活用してください。

- 【公務就職支援室 支援メニュー】
- ①最新公務員採用試験情報（採用説明会や試験情報など）の提供
 - ②人物評価試験に向けた面接指導
 - ③小論文や選考書類（エントリーシート）の添削指導 等

【問い合わせ先】
八尾駅前キャンパス10階 公務就職支援室
TEL:072-920-4733（直通）
Mail:syushoku@keiho-u.ac.jp

併せて、志望先に合わせて、特修講座（Sコース）の公務員講座を受講するようにしてください。（詳細はP66）

(4) ダイバーシティプログラム

ダイバーシティプログラムのねらい

LGBTQ、障がい者雇用、女性活躍推進、異文化理解など、多様な価値観を受容するダイバーシティ（多様性）＆インクルージョン（受容性）を軸として、その先にある「全ての人が互いの個性を認め合い活躍できる社会」に生きる人材としての基本的な考え方と就業観を養うことを目的としています。

時代の潮流を捉え、全学年、全学部の学生を対象として、ダイバーシティ＆インクルージョンへの理解、働き方改革、SDGsなど、社会課題に対する理解を深めるためのプログラムを実施しています。

実施プログラムの紹介

正課のキャリア教育科目において当該プログラムの時間枠を設け、初年次からテーマと課題を段階的に設定し、多様性を受容する社会での就業観を培っていきます。

学年	科目名	概 要
1年生	国際キャリア開発	ダイバーシティ＆インクルージョンが推進される社会的な背景と日本における現状を踏まえ、女性を取り巻く雇用情勢やライフイベント、女性活躍推進法等の関連法規なども取扱い、多様な人材が働きやすい社会のあり方について考えます。
2年生	国際キャリアデザイン演習	ダイバーシティ＆インクルージョンへの理解を深めると同時に、演習形式の特性を活かしたワークショップ型の授業展開で、働くこと・生きることへの価値観についての自己理解や相互理解をディスカッションやグループワーク等を通じて深めます。
3年生	国際キャリア演習	働き方改革や、ダイバーシティ経営に取り組む企業による講演を聞き、企業経営における成長戦略との相関性を学び、就職先企業を選択する上での視点を養っていきます。人生100年時代を見据えたエンployアビリティ（雇用され得る能力）とはどのような能力か、自身の将来の進路や目標を見据えながら発展的な理解へとつなげます。

(5) 国際学部特別プログラム（課外講座）

国際学部では、正課の授業と関連させながら正課外のキャリア形成プログラムとして、特別プログラムを用意しています。この特別プログラムは、国際学部生の想定する卒業後の進路に対応して、4コースのプログラム（エアライン／旅行・観光／貿易・商社／英語プロフェッショナル）を用意しており、国際学部生が希望する進路の実現を強力にサポートします。

対象	プログラム内容			
1年生	○ベルリッツTOEIC対策基礎講座 ※1年生は共通プログラムとなり、TOEIC対策の講座で各コースに求められる英語運用能力の向上を図ります。			
2年生以降	【エアライン】	【旅行・観光】	【貿易・商社】	【英語プロフェッショナル】
	○ANAエアラインスクール ※派遣プログラム	○総合旅行業務取扱管理者講座 ○国内旅程管理主任者講座	○通関士講座 ○貿易実務検定（C級）講座	○ベルリッツTOEIC対策 ○観光英語検定2級講座

■ベルリッツTOEIC対策基礎講座

○ベルリッツは、1世紀以上前に言語学者であるベルリッツ博士により創設され、現在では世界50カ国以上で約500のランゲージセンターを擁する世界最大の語学学校となっており、英語・英会話教育において高い実績と評価を得ています。本学のベルリッツTOEIC対策講座では、実績豊富なベテラン講師陣による指導により、TOEIC試験の着実なスコアアップを図り、グローバル人材に求められる高度な英語運用能力を段階的・体系的に培うことができます。

■エアラインプログラム

○エアライン講座は、ANAエアラインスクール大阪校への派遣プログラムです。ANAの現役キャビンアテンダント・グランドスタッフを中心とした経験豊富な講師陣が指導にあたり、接遇の基本をはじめ、ANAのエッセンスを取り入れたプログラムとなっており、エアライン業界への就職を目指す学生にとって大変有意義な講座です。また、講座において一定の成績を収めた修了者にはANAエアラインスクールからANAグループへの推薦があり、就職活動でも大きなサポートが得られるという特典が付与されます。なお、本学の学生については、ANAエアラインスクールとの教育連携協定により、特別価格で受講できます。

■旅行・観光プログラム

○旅行業務取扱管理者は旅行業界で唯一の国家資格です。旅行業務取扱管理者の仕事は旅行の企画から契約、実施までの一連の流れの全てに関わります。具体的には、顧客のニーズに合う旅行商品の企画、宣伝広告、契約時の説明や必要書類の交付、ツアーの実施、実施後のフォローまで、管理・監督者としての役割を担う重要な職務が任されることになります。なお、旅行業務取扱管理者資格は大きく分けて2種類あります。「国内旅行業務取扱管理者」は、国内旅行に関わる業務のみ扱うことができる資格であり、「総合旅行業務取扱管理者」は国内・海外を問わず旅行業務全般を扱うことができる資格です。旅行・観光プログラムでは、「総合旅行業務取扱管理者」の講座を開講します。

■貿易・商社プログラム

○通関士講座：通関士は、貿易のスペシャリストとして貿易立国である日本に欠かせない、貿易の専門家です。通関士は貿易関係では唯一の国家資格であり、社会的ニーズが高い職業です。通関士は豊富な知識を使って、「通関書類の作成」や、「通関手続きの代行」といった通関業務を遂行します。通関士講座では資格取得に必要な知識を体系的に学ぶことができます。
○貿易実務検定（C級）講座：貿易実務検定は、貿易実務のエキスパートとしての能力・知識を客観的に測るものであり、定型業務をこなすために必要な知識があることを証明することができます。貿易実務検定では、試験科目となる「貿易実務」と「基礎的な貿易実務英語」を効率よく学ぶことができます。

■英語プロフェッショナルプログラム

○ビジネスのグローバル化が進むにつれて英語の必要性はますます高まっています。ベルリッツTOEIC対策は、ビジネスシーンで使われる英語を基にリスニングの基礎力をしっかりと身に付けると同時に「使える英語」にレベルアップをめざします。
○「観光英検2級」講座では、観光分野で必要となる英語力を身につけることを目的とし、就業力の養成および向上をめざします。

(6) Athlete Career Program (体育会クラブ生のためのアスリートキャリアプログラム)

体育会クラブ所属の学生を対象に「Athlete Career Program (アスリートキャリアプログラム)」を実施しています。このプログラムは、高い目標を持って体育会クラブ活動に打ち込む一方、将来の進路(就職)として、「公務員」や「リーディングカンパニー」を目指すクラブ生を全力でバックアップします。また、採用側(企業・公務)が期待する体育会クラブ生の資質・行動特性を徹底して養成し、学業との両立サポート、スポーツ活動で養った行動力とリーダーシップを自らのキャリアとして役立てるための支援、アドバイスを行ないます。

～ 2021年度 実施予定のプログラム ～			
■Program 1 Sコース支援 (公務員講座)	2・3年生 対象	申込制	学年毎に、体育会系クラブ生のためのクラス(アスリートクラス)を設置。クラブ活動と重ならない時間帯(3・4限)で受講できるなど、公務員を目指す全クラブ生を対象に希望進路の実現に向けサポートします。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス10階 エクステンションセンター
■Program 2 トップアスリート 講演会	全クラブ生 対象	申込制	著名なトップアスリートや、そのアスリートを陰で支えるメンタルトレーナーを招き、目標設定や組織運営、モチベーションの向上など、「人材育成」や「目標達成」をテーマとしたアスリートのための特別講演を開催します。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス3階 キャリアセンター
■Program 3 アスリート向け キャリアプログラム	全クラブ生 対象	申込制	スポーツ関連業界の企業見学や、体育会系クラブ生を対象としたキャリアガイダンスを実施。体育会系クラブ生の進路支援をサポートします。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス3階 キャリアセンター
■Program 4 体育会クラブ学生 キャリア相談	全クラブ生 対象	予約制	キャリアセンターに体育会クラブ生のための専任キャリアアドバイザーを配置しています。クラブ活動と学業との両立や、将来の進路・就職についての相談など、将来を見据えた様々な相談に応じます。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス3階 キャリアセンター

(7) 就活シリーズ講座

「就活シリーズ講座」とは、就職活動を控える学部3年生と修士1年を対象に実施する講座です。この講座は、就職活動全般の流れを理解するとともに、就職に対する意識喚起と円滑な就職活動を行うために必要な諸能力の養成を目的とした内容でプログラムを構成しています。具体的なプログラムとしては、就職活動のスケジュールや履歴書の書き方、ビジネスマナー等を学ぶ就職ガイダンスをはじめ、リクナビやマイナビ等の就職情報ナビの活用講座、初期選考で実施される筆記試験やWEBテストの対策講座、面接対策講座、業界研究セミナー等、豊富なメニューを取り揃えています。是非、これらの就活シリーズ講座を受講し、就職活動をやりきることで希望進路を実現してください。

<筆記試験対策を効率よく行いたい人は受講しよう！>

- 《対象者》
- 筆記試験対策って何をしたらいいの?という人
 - 勉強しているけど、まだまだ実力に不安がある人、問題傾向がつかめていない人
 - 中～大手企業、人気企業への就職を検討している人

入社試験において避けては通れないものといえば、筆記試験。早めの対策が必要ですが、対策をすれば必ず結果が出ます。例年、この対策を後回しにして、就職活動に追われ苦戦する人がでてきます。

筆記試験対策講座では、

- ・「採用試験で使われる筆記試験について知り、効率の良い対策の取り方を理解する」
- ・「就職試験で求められる学力レベルの養成」を目指します。



●SPI筆記試験対策講座

採用試験では、多くの企業でSPI3と呼ばれる試験が使われています。また、大阪府、大阪市をはじめ公務員採用試験でも導入する自治体が増えてきています。対策講座では、特に「頻出度の高い分野」や、「理解度により点差のつく問題」を重点的に解説し、解答のスピードアップと重点分野の回答率向上(プレテストとファイナルテストを実施)を目指します。
※WEB試験対策として、WEB模擬試験を実施予定

●玉手箱筆記試験対策講座

採用試験は様々な種類がありますが、業界により使われる試験の傾向が異なります。この講座では、近年採用試験に取り入れる企業が増えている。
「玉手箱」と呼ばれる試験の対策を行います。この講座に参加して、様々な筆記試験の対策に繋がしましょう。

(8) 就活実践Camp

対象学年：学部3年生、修士1年
内容：「就活実践Camp」は、就職活動を控えた3年生及び修士1年が、グループディスカッションや模擬面接などの実践経験を積む研修です。民間企業クラスと公務員志望クラスごとで、志望先を意識した実践的プログラムを実施しており、「就職活動をやり切る力の育成」をめざしています。
また、外国人留学生対象のプログラムも実施しています。
詳細については、学内掲示板やUNIVERSAL PASSPORTのお知らせで案内します。

【就活実践CampのPoint】

- 就職活動本番直前に就職活動に必要な全てのこと（就活マナー、自己分析、筆記試験対策、グループディスカッション、模擬面接）を体験
- 企業の人事担当者による模擬面接など、実践型のプログラム
- 50社程度の企業・官公庁が集まり、業界セミナーを開催
- 選択型ガイダンスで、知りたい分野の情報収集が可能

実施プログラム（例）	内容
面接実践①グループディスカッション	実際に企業・官公庁で出題されたテーマで模擬グループディスカッションを実施
面接実践②個人面接	企業人事担当者による模擬個人面接とフィードバックを実施
面接実践③集団面接	学生が観察側と実施側にわかれて集団模擬面接を実践
合同業界セミナー	50社程度の企業・官公庁が集結し、業界セミナーを開催
ガイダンス	面接対策、志望分野別ガイダンス
パネルディスカッション	内定を勝ち取った先輩が就活の体験談を語る

この他にも、「外国人留学生ガイダンス」、「外国人留学生就職相談会」等を予定しています

【問合せ先】：キャリアセンター（八尾駅前キャンパス3F）／公務就職支援室（八尾駅前キャンパス10F）
TEL：072-920-4713（キャリアセンター） FAX：072-920-4718
072-920-4733（公務就職支援室）
E-mail：syushoku@keiho-u.ac.jp

●キャリアセンター LINE公式アカウントを友達登録しよう！

LINE@公式アカウントを友達登録すると、ガイダンス情報などのご案内、就職・進路に関する様々な情報をお届けします。

QRコードを読み取って、是非登録してください。



Ⅲ そ の 他

現代は「実力主義の時代」といわれています。能力ある人が社会で活躍できる可能性は、グローバル化、インターネットの時代とともに世界中に広がっています。エクステンションセンターは自分自身を磨き、将来を見据えてスキルアップを目指す学生を全面的にサポートしています。そのために国家試験を始め、資格・検定試験の対策講座を学内開設し、資格取得のための情報提供、相談も行っています。エクステンションセンターの講座で21世紀に活躍する「人財」となってください。

(1) 特修講座（Sコース）

1. 公務員講座

●公務員基礎講座（1年次対策）

この講座は、公務員を目指す方の1年次講座と位置づけられ、公務員試験に必要な基礎力を中心に講義するものです。警察官・消防官を目指す方、あるいは国家公務員・地方公務員を目指す方の基礎講座です。

●公務員採用試験対策講座（警察官／市役所・消防官／国家一般・地方上級コース）

この講座は、2年次秋学期から3年次3月までの約1.5年で実施され、志望3クラスに分かれて開講します。各コースに共通する内容については合同で実施しますが、それぞれの公務員採用試験の特性に合わせたカリキュラムによる筆記試験対策を行い合格を目指します。

●公務員講座アスリートクラス（2年次対策・3年次対策）

この講座は、公務員採用試験の突破を目指すスポーツ系クラブ生のための公務員試験対策講座です。
公務員採用試験に必要な教養科目（数的処理、社会科学、文章・論文など）の学習を、科目ごとに行い合格を目指します。

2. 法職講座

法科大学院入学試験、司法試験予備試験、司法書士試験、行政書士試験の合格、あるいは法学検定試験の合格を目指す講座です。1年目の「法職基礎講座」は、各試験の共通講座として、憲法・民法・刑法・行政法の基礎知識を修得します。基礎講座終了後、各試験ごとに講座が分かれ、法科大学院入学試験・司法書士試験・行政書士試験それぞれの試験科目を基礎からしっかりと学び、その後模擬試験や答案練習等を行い応用力をつけます。

3. 会計職講座

公認会計士試験・税理士試験の合格を目指す講座です。1年目の「会計職基礎講座」では会計の基礎である日商簿記検定試験3級対策から始まり、最終的には実務が出来る日商簿記検定試験2級の合格を目指します。2年目からはコース別の講座になり、公認会計士試験・税理士試験それぞれの試験科目を基礎からしっかりと学習します。

4. 大学院進学講座

多様化した現代社会では専門知識が必要です。また、高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う専門職大学院も増えていきます。この講座では大学院入試で必要となる研究計画書の作成などを指導します。

(2) 資格講座

法律系講座

●ビジネス実務法務検定3級講座

ビジネス実務法務検定試験とは、ビジネスパーソンにとって必要不可欠なコンプライアンス能力（ビジネスにおいて業務のリスクを察知し、法的にチェックし、問題点を解決に導くスキル）の基礎となる実務的な法律知識を体系的かつ効率的に身に付けることができる試験です。3級のレベルは、ビジネスパーソンとして最低限知っているべき法律実務基礎知識を想定しています。この講座では、法律の基礎から学習し、3級の合格を目指します。

●ビジネス実務法務検定2級講座

ビジネス実務法務検定2級は、企業活動の実務経験があり、弁護士などの外部専門家への相談ができるなど、質的・量的に法律実務知識を有するビジネスパーソンのレベルを想定しています。
この講座では、短期合格を目指すため、インプットとアウトプットを効果的に組み合わせ、「分かる」だけでなく、問題が「解ける」までの力を養います。

●宅地建物取引士講座

宅地建物取引士は宅地・建物の取引に関する国家試験で、不動産業界や金融業界を中心にニーズがあり、毎年約20万人近くが受験する人気のある試験となっています。この講座では、宅建に関する基礎知識および問題演習を中心に講義を進め、10月に実施される試験合格を目指します。（但し、試験時期は変更となる場合があります。）

●社会保険労務士講座

社会保険労務士（通称：社労士）とは、企業における人材の採用から退職までの「労働・社会保険に関する諸問題」や「年金の相談」などに応じる労働・社会保険に関する法律、人事・労務管理の専門家で、企業が発展するための重要なパートナーです。

経済系講座

●日商簿記3級試験対策講座

簿記とは、日常行われる経営活動を記録し、計算・整理するために必要となる技能のことを言います。
3級試験対策講座は10月に開講、2月実施の簿記検定での合格を目指す講座になります（但し、試験時期等については変更となる場合があります）。また、正課授業と関連付けて学習することもできるため、簿記検定の合格に必要な基礎知識をしっかりと身に付けることができます。

●ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士3級講座

ファイナンシャル・プランニングは、ある分野に限定した知識だけでなく、金融、株式、保険、不動産、税金、ローンなど経済・法律の幅広い知識が必要となります。経済学、法学の両方を学べる本学学生にまさに適合した資格です。この講座ではFPの基礎知識を中心に「ファイナンシャル・プランニング技能検定3級試験」の対策をおこないます。

●ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士2級講座

今注目のファイナンシャル・プランナーの国家資格取得講座です。この講座では、国家資格「ファイナンシャル・プランニング技能検定2級試験」の合格をめざします。

●リテールマーケティング（販売士）2級講座

この講座では「販売」に関する多様で、具体的な学習を通して、企業からも需要が高い「リテールマーケティング（販売士）検定試験2級」の合格をめざします。

●ビジネス会計3級講座

企業の経営情報を把握するためには、会計情報を理解できる力（会計リテラシー）が必要になります。この試験では、簿記検定試験のような財務諸表の作成とは違い、財務諸表を理解し、分析するために必要な知識が問われます。
この講座では、財務諸表を理解するために必要な基本的知識が問われる3級合格にむけた対策を行います。

●ビジネス会計2級講座

3級が財務諸表分析の基本的な知識が問われるのに対して、2級では企業の事業戦略や経営戦略が理解できる応用的知識が問われます。
この講座では、3級では出題されます連結財務諸表の学習から2級合格にむけた応用対策を行います。

●証券外務員一種講座

証券外務員は銀行や証券会社等に所属し、顧客に対して金融商品等を勧誘する等の金融商品取引業務を行うことができる資格です。
この講座は外務員資格合格に必要な知識の基礎から試験対策まで行います。

情報系講座

●ITパスポート講座

ITパスポートは、情報処理技術者試験の中で最も易しいレベルの国家試験です。ITパスポート試験では、パソコン操作ができる、データを処理できる、というレベルには留まらず、「経営戦略・マーケティング・財務・法務など経営全般に関する知識」をはじめ、「セキュリティ・ネットワークなどのITの知識」「プロジェクトマネジメントの知識」など幅広い分野の総合的知識を学んでいく試験です。
この講座は、正課科目（ハードウェア論、ソフトウェア論、ネットワーク論、情報システム論、情報科学演習）と連携し、ITパスポート試験の合格を目指します。受講をされる前に正課科目で基本的な知識を身に付けておくことをおすすめします。

語学系講座

●TOEIC講座

TOEIC テストは日常からビジネスまで、どのくらい英語でコミュニケーションができるかを測ることができる世界共通のテストで、世界約160カ国で実施されています。試験は、リスニングとリーディングで構成され、結果は可否ではなくスコアで評価されるため、英語力の証明等に活用することができます。
この講座では、TOEICテストのセクションごとに学習を行い、初めて学習する方にもわかりやすい内容で実施していきます。

●日本語能力試験対策講座

日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として1984年から開始されました。2019年の受験者数は全世界で約117万人にのぼり、現在では世界最大規模の日本語の試験となっています。
日本語能力試験の認定には、企業での優遇や社会的な資格認定など、さまざまなメリットがあります。

国際ビジネス系講座

●旅行業務取扱管理者講座

旅行業務取扱管理者は、国家資格であり、国内旅行のみを取り扱うことのできる「国内旅行業務取扱管理者」と、海外旅行も取り扱うことのできる「総合旅行業務取扱管理者」の2種類あり、旅行関連業界を目指す方におすすめの講座です。
この講座は、「国内旅行業務取扱管理者試験」と「総合旅行業務取扱管理者試験」の両方に対応したカリキュラムですので、どちらの旅行業務取扱管理者試験にもチャレンジできます。

●国内旅程管理主任者講座

旅程管理主任者は、旅行会社が企画するツアーや団体旅行に同行する主任添乗員に取得が義務づけられる公的な資格です。国内旅行のみ添乗できる「国内旅程管理主任者」と、海外旅行にも添乗できる「総合旅程管理主任者」の2種類があります。この講座では、「国内旅程管理主任者」として業務に従事する際に必要な知識を学習し、実務研修を経験して資格の取得を目指します。

●通関士講座

通関士とは、国家試験である通関士試験に合格した者のうち、通関業者の申請に基づき税関長の確認を受けて、通関業務に従事する者を言います。
この講座では、まず税関手続の基本ルールとなる関税法等の実務に必要な法律知識の分野から学習した後に、実務に直結する内容の学習を始めます。そのため、知識がゼロの初学者でも合格レベルまでムリなく効率的に誘導し、10月に実施される試験の合格を目指します。

●観光英語検定2級講座

観光英語は、旅行や観光時の様々な場面での専門的な用語や言い回しなどが含まれていることが特徴で、一般的に中学・高校で習ってきた英語とは一味違ったものとなっています。この観光英語の能力を測るための試験が観光英語検定です。
将来、観光業界への就職を目指している方には勿論、海外旅行を楽しみたい方や、海外旅行の計画を独自で調整したい方にも最適な試験です。

その他スキルアップ系講座

●秘書検定2級講座・準1級講座

秘書検定は社員に求められるビジネスの場におけるマナー・気配り・言葉遣い・振る舞い・機転・対人関係を学んでいく試験です。秘書技能検定2級は一般的な秘書業務を行うための知識と技能が問われ、学生や若い社会人の方から人気があり、実践的なマナーが身につく、オフィスでも通用します。秘書技能検定準1級は、立ち居振る舞いや高いコミュニケーション能力が身につくため、社会人としての常識を有し即戦力となりうる人材として企業から高く評価されています。

(1) 学修における注意点

単位の認定

編入生の皆さんは、本学に編入学した際、60単位を上限として単位の認定がなされています。但し、認定単位数は、それぞれの提出された成績証明書に基づいておこなっており、学生によって異なる場合があります。各自、必ず編入学時に認定された単位数から、卒業に必要な単位を確認し、それぞれに必要な学修を進めるようにしてください。

学修にあたっての注意点等

編入生の皆さんは、本学入学時に60単位を上限とした単位認定がされており、カリキュラムおよび卒業要件等は、編入学を許可された年次に所属する学生と同一の規定が適用されます。

まず、希望する進路や関心に応じて、コース選択を行い、次ページの卒業要件を念頭におきながら、所属学部の専門教育科目を中心に履修・修得しなければなりません。

(2) 履修制限単位

編入生の履修制限単位数は、次の通りです。履修単位数は、年間および学期毎に履修の単位制限が設けられていますので、2年間の学修計画をしっかりと立てて単位を修得してください。

学年	3年次		4年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
年間制限単位	60単位		60単位	
学期制限単位	30単位	30単位	30単位	30単位

(3) 卒業要件（編入学生用）

本学3年次に編入学し、2年以上在学して所定の単位を修得したものについては「学士」の学位が授与されます。ただし、6年を越えて在学することは許されません。単位認定については、出身校の修得科目の内容や単位数に応じて、60単位を上限として単位を認定し、本学部卒業に必要な単位数のうちに算入します。

卒業に要する単位は次のとおりです。

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	—	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において、「Intensive English W/R I」、「Intensive English W/R II」、「Intensive English L/S I」、「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含め20単位以上を修得すること。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上を修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、「Advanced English W/R II」、「Advanced English L/S I」、「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、「Advanced English W/R II」、「Advanced English L/S I」、「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において、「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクト I」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目 又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合 計		124単位

国際コミュニケーションコースの卒業要件単位

科目区分			必修	選択	必修及び 選択の合計	
共通教育科目			—	14	14	
専門教育科目	専門基礎科目		8	12	14※	90
	専門 発展 科目	国際理解科目群	—	10		
		コミュニケーション科目群	8	22		
		国際ビジネス関連科目群	—	10		
	演習科目		4	—		
	留学・体験科目		—	2		
	キャリア形成科目		—	—		
共通教育科目及び専門教育科目			—	20	20	
卒業要件単位合計			20	104	124	

※左記に加え、専門基礎科目、専門発展科目、演習科目、留学・体験科目及びキャリア形成科目の中から14単位以上を修得すること。

グローバルキャリアコースの卒業要件単位

科目区分			必修	選択	必修及び 選択の合計	
共通教育科目			—	14	14	
専門教育科目	専門基礎科目		8	12	14※	90
	専門発展科目	国際理解科目群	—	10		
		コミュニケーション科目群	8	2		
		国際ビジネス関連科目群	—	30		
	演習科目		4	—		
	留学・体験科目		—	2		
	キャリア形成科目		—	—		
共通教育科目及び専門教育科目			—	20	20	
卒業要件単位合計			20	104	124	

※左記に加え、専門基礎科目、専門発展科目、演習科目、留学・体験科目及びキャリア形成科目の中から14単位以上を修得すること。

資料

大阪経済法科大学学則

第1章 総則

- 第1条
- 本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。
- 第1条の2
- 本大学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うとともに、文部科学大臣が指定する認証評価機関による認証評価を受けるものとする。
- 2
- 前項の点検及び評価に関する事項については、別にこれを定める。
- 第1条の3
- 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第2章 学部及び学科等

- 第2条
- 本大学に次の学部及び学科を置く。
-
- | | |
|------|------|
| 経済学部 | 経済学科 |
| 経営学部 | 経営学科 |
| 法学部 | 法律学科 |
| 国際学部 | 国際学科 |
- 2
- 各学部学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。
- （1）

経済学部経済学科は、経済学を中心とする幅広い専門知識とその実践的応用能力を有し、内外の社会的状況を考慮しつつ、市民生活や企業の直面する諸問題を理解し、倫理と公共性と責任感を持って、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。

（2）

経営学部経営学科は、経営学を中心とする幅広い専門知識と多様な応用能力を修得し、技術革新やグローバル化の進展によって産業や社会システムが変化する中で、実践的な課題解決力を備え、現代ビジネスの諸課題に主体的・創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。

（3）

法学部法律学科は、基礎的な法学教育を土台として、法と政治についての高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。

（4）

国際学部国際学科は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成を目指して、教育研究を行う。

- 第2条の2
- 本大学に各学部の共通教育科目等を一括して運営するため、教養部を置く。
- 第2条の3
- 本大学に大学院を置く。
- 2
- 大学院に関する学則は、別に定める。
- 第3条
- 各学部学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	200名	800名
経営学部	経営学科	200名	800名
法学部	法律学科	260名	1,040名
国際学部	国際学科	200名	800名

第3章 授業科目

- 第4条
- 本大学の授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分ける。
- 2
- 共通教育科目は、別表1のとおりとする。
- 3
- 各学部において開設する専門教育科目は、別表2のとおりとする。

第4章 修業年限、履修方法及び単位

- 第5条
- 本大学の修業年限は、4年とする。
- 2
- 在学年数は、8年を超えることができない。
- 第6条
- 削除

- 第7条
- 各学部学科の学生の卒業に要する単位数は、次のとおりとする。
- （1）経済学部経済学科
- | 授業科目 | 単位数 |
|--------------------------|--------|
| 共通教育科目 | 30単位以上 |
| 専門教育科目 | 80単位以上 |
| その他、共通教育科目及び専門教育科目から14単位 | |
| 合計 | 124単位 |
- （2）経営学部経営学科
- | 授業科目 | 単位数 |
|--------------------------|--------|
| 共通教育科目 | 30単位以上 |
| 専門教育科目 | 80単位以上 |
| その他、共通教育科目及び専門教育科目から14単位 | |
| 合計 | 124単位 |
- （3）法学部法律学科
- | 授業科目 | 単位数 |
|--------------------------|--------|
| 共通教育科目 | 40単位以上 |
| 専門教育科目 | 70単位以上 |
| その他、共通教育科目及び専門教育科目から14単位 | |
| 合計 | 124単位 |
- （4）国際学部国際学科
- | 授業科目 | 単位数 |
|--------------------------|--------|
| 共通教育科目 | 14単位以上 |
| 専門教育科目 | 90単位以上 |
| その他、共通教育科目及び専門教育科目から20単位 | |
| 合計 | 124単位 |
- 2
- 各学部の学生の卒業に要する単位数には、他学部の専門教育科目の履修により修得した単位を含めることができる。
- 3
- 履修方法その他細則については、別に定める。
- 第7条の2
- 年間に修得すべき標準的な単位数は、31単位とする。
- 2
- 前項の単位数を下回る学生には、修学指導を実施する場合がある。
- 第8条
- 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
- （1）講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。
- （2）外国語は、30時間の授業をもって1単位とする。
- （3）実験、実習及び体育の実技は、30時間の授業をもって1単位とする。
- 2
- 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 第8条の2
- 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2
- 本大学は、文部科学大臣が定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3
- 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとする。
- 4
- 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。第2項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

- 第9条
- 経済学部経済学科及び法学部法律学科にそれぞれの教育課程に応じた中学校及び高等学校の教育職員免許状の所要資格を得させるための課程（教職課程）を置く。
- 2
- 教育職員免許状の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づき、必要な授業科目の単位を修得しなければならない。
- 3
- 教育職員免許状の所要資格を得ようとする者のために、開設する授業科目及び単位数は、別表3のとおりとする。
- 4
- 本大学で取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

経済学部経済学科	中学校 教諭 一種免許状（社会） 高等学校教諭 一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭 一種免許状（公民）
法学部法律学科	中学校 教諭 一種免許状（社会） 高等学校教諭 一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭 一種免許状（公民）

第5章 授業科目修了の認定及び学士の学位

- 第10条
- 学生は、指定された期日内に履修希望の授業科目を届け出て承認を得なければならない。
- 第11条
- 授業科目修了の認定は、筆記又は口述による試験その他適当な方法による。ただし、演習、実験、実習及び体育の実技等は、平常の成績によることができる。
- 第12条
- 授業科目修了の認定は、学期末又は学年末に行う。
- 第13条
- 授業科目修了の認定は、秀・優・良・可・不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。
- 第14条
- 合格した授業科目については、所定の単位の修得を認める。
- 第14条の2
- 本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 2
- 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3
- 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 4
- 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 5
- 前各項の定めにより、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、合わせて60単位を超えないものとする。
- 第15条
- 4年以上在学して、所定の授業科目につき定められた単位を修得した者には、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。
- 第16条
- 前条により卒業した者には、次の区分に従い、学士の学位を授与する。
- 経済学部 経済学科 学 士 （経済学）
- 経営学部 経営学科 学 士 （経営学）
- 法 学 部 法律学科 学 士 （法 学）
- 国際学部 国際学科 学 士 （国際学）

第6章 学年・学期及び休業日

- 第17条
- 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第18条
- 学年は、次の2学期に分ける。
- 春学期 4月1日から 9月30日まで
- 秋学期 10月1日から 翌年3月31日まで
- 2
- 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、春学期の終期及び秋学期の始期を変更することができる。
- 第19条
- 休業日は、次のとおりとする。
- (1) 日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、本大学創立記念日（4月26日）

- (2) 春季休業 3月21日から4月7日まで
- (3) 夏季休業 8月1日から9月30日まで
- (4) 冬季休業 12月24日から1月7日まで
- 2
- 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

第7章 入学、転学部、転学科、休学及び退学

- 第20条
- 入学の時期は、毎学年始めとする。
- 第21条
- 本大学の第1年次に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
- (1) 高等学校又は中等教育学校の卒業者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (7) その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学が認めた者
- 第22条
- 入学者は、検定によって決定する。入学者検定の方法は、その都度定める。
- 第23条
- 入学に必要な手続は、別に定める。
- 第24条
- 本大学に編入学又は転入学を願い出る者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。
- 2
- 前項の規定により、入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
- (1) 大学（外国の大学を含む。）に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (2) 短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
- (5) その他相当の年齢に達し、前各号に規定する者と同等以上の学力があると本大学が認めた者
- 第25条
- 本大学に在学する者で、転学部又は転学科を願い出る者があるときは、選考の上、許可することがある。
- 第26条
- 第24条及び第25条の取扱いに関しては、別に定める。
- 第27条
- 学生が疾病その他やむを得ない事由のため、休学又は退学を願い出たときは、これを許可することがある。
- 2
- 休学の期間は、継続2年以内とし、通算して4年を超えることができない。
- 3
- 休学期間は、第5条及び第15条に規定する在学期間に算入しない。
- 第28条
- 前条により退学した者が再入学を願い出たときは、選考の上、許可することがある。
- 2
- 前条により休学した者が復学を願い出たときは、許可を得て復学することができる。
- 第28条の2
- 入学、転学部、転学科、休学、退学、再入学及び復学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。
- 第29条
- 他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、教授会の審議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第8章 留学及び外国人留学生

- 第30条
- 本大学と学生交換に関する協定を締結している外国の大学又はその他の外国の大学に留学を希望する者があるときは、これを許可することがある。
- 2
- 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学を願い出る者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
- 3
- 前項の外国人留学生に対しては、第4条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置く。日本語科目及び日本事情に関する科目について、その開設する授業科目及び単位数は、別表4のとおりとする。
- 第30条の2
- 留学及び外国人留学生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。
- 第31条
- 留学及び外国人留学生の取扱いに関しては、別に定める。

第9章 聴講生、科目等履修生及び単位互換履修生

- 第32条
- 特定の授業科目について聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として許可することがある。
- 2
- 聴講生の取扱いに関しては、別に定める。
- 第32条の2
- 特定の授業科目について科目等履修を願い出る者があるときは、本学学生の修学の妨げにならない限り、選考の上、科目等履修生として許可することがある。

- 2

科目等履修生がその履修した授業科目の試験を受け、合格した科目については、単位を与える。
- 3

科目等履修生の取扱いに関しては、別に定める。
- 第32条の3

本大学と協定のある他大学の学生で、協定に基づき本大学が提供する授業科目について履修を願ひ出る者があるときは、選考の上、単位互換履修生として許可することがある。
- 2

単位互換履修生の取扱いに関しては、別に定める。

第10章 賞罰

- 第33条

特に学術、課外活動等において顕著な功績があり、他の学生の模範となる者は、これを表彰する。
- 第34条

学生に本大学の規則に違反し、又は学生の本分に反する行為があると認めたときは、懲戒を加える。
- 第35条

懲戒処分は、訓告、停学及び退学とする。退学は、次の各号の一に該当する者について行う。

(1)

性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)

学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

(3)

正当の理由がなくて出席が常でない者

(4)

本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 2

学生懲戒の取扱いに関しては、別に定める。

第11章 入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料

- 第36条

本大学に入学を出願する者は、別表5に定める入学検定料を納付しなければならない。

2

科目等履修生として出願する者は、別表6に定める科目等履修生検定料を納付しなければならない。

3

転学部又は転学科を出願する者は、別表7に定める転学部検定料又は転学科検定料を納付しなければならない。
- 第37条

本大学に入学を許可された者は、別表8に定める入学金を納付しなければならない。
- 第38条

学生は、別表9に定める授業料を納付しなければならない。

2

所定の期間内に休学願を提出しこれが許可された場合は、前項にかかわらず、別表10に定める在籍料を納付しなければならない。
- 第38条の2

本大学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、入学金及び授業料の減免を実施する。

2

前項の減免の取扱いについては、別に定める。
- 第39条

聴講生は、別表11に定める聴講料を納付しなければならない。
- 第39条の2

科目等履修生は別表12に定める履修登録料及び履修料を納付しなければならない。
- 第40条

入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料等の徴収については別に定める。
- 第41条

既納の入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料等は、別に定めのある場合を除き返還しない。
- 第42条

授業料、在籍料その他の学費の納付を怠った者は、除籍する。

2

前項により除籍された者が復籍を願ひ出たときは、選考の上許可することがある。
- 第12章 教職員組織
- 第43条

本大学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。

2

教職員に関する規定は、別に定める。

第43条の2

学長は、大学を代表し、建学の理念に基づき、学則その他制規の定めるところにより学務を統括運営する。
- 第13章 図書館
- 第44条

本大学に図書館を置く。

2

図書館に関する規定は、別に定める。
- 第14章 附属研究機関
- 第45条

本大学に次の附属研究機関を置く。

(1)

21世紀社会総合研究センター

(2)

地域総合研究所

(3)

アジア研究所

(4)

アジア太平洋研究センター

2

前項に規定する研究機関に関し必要な事項は、別に定める。
- 第15章 教授会
- 第46条

本大学に学部教授会及び教養部教授会を置く。

第47条

削除

第48条

削除

第49条

削除

第50条

各学部及び教養部教授会は、各学部及び教養部所属の教授、准教授、講師、助教及び助手をもって構成され、各学部長又は教養部長が招集して議長となる。

第51条

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1)

学生の入学、再入学及び卒業

(2)

学位の授与

(3)

教育課程編成に関する事項

(4)

学生の転学部、転学科、他大学への入学又は転学、休学、退学、復学及び留学に関する事項

(5)

学生の懲戒処分に関する事項

(6)

教員資格審査に関する事項

(7)

前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定めるもの

2

教授会は、前項に規定するもののほか、学長、学部長及び教養部長（以下、「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第52条

各学部及び教養部の教授会に関する規定は、別に定める。
- 第16章 大学協議会
- 第53条

本大学に大学の運営に関する重要事項について審議するため、大学協議会を置く。

第54条

削除

第55条

削除

第56条

大学協議会に関する規定は、別に定める。
- 附則
- 1

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

2

第7条、別表1、別表2及び別表4の改正は、令和3年度入学者から適用し、令和2年度以前の入学者の卒業要件及び授業科目等については、なお従前の例による。ただし、別表2（1）（3）（4）の新規開設科目等については、令和2年度以前の入学者にも適用する。
- 78
- 79

<別表 1>
(4) 令和3年度 共通教育科目 (国際学部国際学科)

学科目	授業科目	単位	備 考
共通教育科目	文章表現入門	2	共通教育科目から14単位以上を修得すること
	基礎体育A	1	
	基礎体育B	1	
	哲学	2	
	日本史	2	
	日本近現代史	2	
	西洋史	2	
	考古学	2	
	文化人類学	2	
	文学	2	
	言語学	2	
	教育学	2	
	心理学	2	
	日本国憲法	2	
	法学	2	
	政治学	2	
	経済学	2	
	地理学	2	
	社会学	2	
	日本事情入門	2	
	現代日本事情	2	
	科学技術史	2	
	化学と生活	2	
	統計学Ⅰ	2	
	統計学Ⅱ	2	
	数理論理学	2	
	生物学	2	
	情報システム論	2	
	ソフトウェア論	2	
	ネットワーク論	2	
	ワープロ実践	2	
	表計算実践	2	
	データベース実践	2	
	デジタルプレゼンテーション	2	
	ワープロ応用	2	
	表計算応用	2	
	プログラミング実践	2	
	情報科学演習	2	
	環境論	2	
	環境フィールドスタディⅠ	2	
	環境フィールドスタディⅡ	2	
	平和学	2	
	マスコミ論	2	
	地域文化論	2	
	芸術学	2	
	河内学	2	
	現代社会学	2	
	現代社会と人権	2	
	現代社会と教育	2	
	現代社会と健康	2	
	現代社会と日本語	2	
	現代社会と科学	2	
	現代社会とビジネス	2	
	現代社会と観光	2	
	現代社会とメディア	2	
	人権の諸問題	2	
	海運と港湾	2	
	日本の水産業と世界の水産業	2	
	日本の農業	2	
	世界の農業	2	
	地球と環境	2	
	環境と経営	2	
	環境と社会	2	
	環境と海洋	2	
	環境と生態	2	
	環境保全論	2	

学科目	授業科目	単位	備 考
共通教育科目	環境演習A	2	
	環境演習B	2	
	ビジネスリテラシー	2	
	総合演習a	2	
	総合演習b	2	
	フランス語Ⅰ	2	
	フランス語Ⅱ	2	
	中国語Ⅰ	2	
	中国語Ⅱ	2	
	韓国語Ⅰ	2	
	韓国語Ⅱ	2	
	ロシア語Ⅰ	2	
	ロシア語Ⅱ	2	
	中国語総合演習A	2	
	中国語総合演習B	2	
	ロシア語総合演習A	2	
	ロシア語総合演習B	2	
	日本語総合演習A	2	
	日本語総合演習B	2	
	中国語会話	1	
	韓国語会話	1	
	日本語読解	1	
	日本語会話	1	
	日本語表現	1	
	中国語コミュニケーション演習	4	
	韓国語コミュニケーション演習	4	
	健康科学論	2	
	心とからだの病理学	2	
	身体運動科学	2	
	スポーツ論	2	
	生涯スポーツA	1	
	生涯スポーツB	1	
	フィットネス実習A	1	
	フィットネス実習B	1	
	トレーニング演習A	2	
	トレーニング演習B	2	
	身体管理論	2	
	スポーツ指導論	2	
	スポーツ管理論	2	

<別表 2>
(4) 令和3年度 国際学部 国際学科 専門教育科目

学科	授業科目	単位	備 考
国際学科	異文化理解Ⅰ	2	Intensive English W/RⅠ、 Intensive English W/RⅡ、 Intensive English L/SⅠ、 Intensive English L/SⅡ の4科目8単位を含め、20単位以上を修得すること ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語1、日本語2、日本語3、日本語4の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。
	異文化理解Ⅱ	2	
	日本史概論Ⅰ	2	
	日本史概論Ⅱ	2	
	世界史概論Ⅰ	2	
	世界史概論Ⅱ	2	
	国際政治学Ⅰ	2	
	国際社会と法	2	
	市民社会と法	2	
	日本と国際法	2	
	Intensive English W/RⅠ	2	
	Intensive English W/RⅡ	2	
	Intensive English L/SⅠ	2	
	Intensive English L/SⅡ	2	
	日本語1	2	留学生科目 留学生科目 留学生科目 留学生科目
	日本語2	2	
	日本語3	2	
	日本語4	2	
	Exam Prep.Ⅰ	2	
	Exam Prep.Ⅱ	2	
	情報リテラシーⅠ	2	
	情報リテラシーⅡ	2	
	メディアリテラシー	2	
	コミュニケーション論	2	
	ことばと文化	2	
	日本経済入門	2	
	世界経済入門	2	
	経営学概論	2	
	国際ビジネス概論	2	10単位以上を修得すること
	日本文化論	2	
	比較文化論	2	
	多文化共生社会論	2	
	Japanese Culture	2	
	Japanese History	2	
	Japanese Society	2	
	Japanese Geography	2	
	Japanese Law and Society	2	
	Comparative Culture	2	
	Comparative Legal System	2	
	ジェンダー論	2	
	宗教学	2	
	社会思想史	2	
	アジア史	2	
	アメリカ史	2	
	アメリカ外交史	2	
	ヨーロッパ史	2	
	現代中国事情	2	
	現代東南アジア事情	2	
	現代オセアニア事情	2	
	現代アメリカ事情	2	
	現代ヨーロッパ事情	2	
	現代中東事情	2	
	Regional Studies (Asia)	2	
	Regional Studies (Oceania)	2	
	Regional Studies (America)	2	
	Regional Studies (Europe)	2	
	国際政治学Ⅱ	2	
	国際関係論	2	
	比較政治学	2	
	対外政策論	2	
	安全保障と国際法	2	
	国際紛争の平和的解決と国際法	2	
	核問題と安全保障	2	
	International Relations and Law (Introduction to International Law)	2	
	国際協力法	2	
	国際人権法	2	
	国際社会と人の移動	2	
	International Migration	2	

学科	授業科目	単位	備 考
国際学科	Multiculturalism in Modern Society	2	
	異文化適応論	2	
	政治地理学	2	
	NPO・NGO論	2	
	地方自治と国際協力	2	
	国際機構論	2	
	比較税制論	2	
	社会保障の国際比較	2	
	都市計画の国際比較	2	
	資源・エネルギー論	2	
	Advanced English W/RⅠ	2	
	Advanced English W/RⅡ	2	
	Advanced English L/SⅠ	2	
	Advanced English L/SⅡ	2	
	日本語5	2	留学生科目 留学生科目 留学生科目 留学生科目
	日本語6	2	
	日本語7	2	
	日本語8	2	
	Academic WritingⅠ	2	
	Academic WritingⅡ	2	
	Business CommunicationⅠ	2	
	Business CommunicationⅡ	2	
	Exam Prep.Ⅲ	2	
	Exam Prep.Ⅳ	2	
	Exam Prep.Ⅴ	2	
	Exam Prep.Ⅵ	2	
	Comprehensive EnglishⅠ	2	〈国際コミュニケーションコース〉 Advanced English W/RⅠ、 Advanced English W/RⅡ、 Advanced English L/SⅠ、 Advanced English L/SⅡ の4科目8単位を含め、30単位以上を修得すること ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語5、日本語6、日本語7、日本語8の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。
	Comprehensive EnglishⅡ	2	
	Current Affairs	2	
	Readings for Global IssuesⅠ	2	
	Readings for Global IssuesⅡ	2	
	翻訳実践	2	
	観光英語	2	
	貿易英語	2	
	日本語文章表現Ⅰ	2	
	日本語文章表現Ⅱ	2	
	日本語コミュニケーション技法Ⅰ	2	
	日本語コミュニケーション技法Ⅱ	2	
	アカデミックライティング	2	
	テクニカルライティング	2	
	情報セキュリティ論	2	
	ビジネスアプリケーション	2	〈グローバルキャリアコース〉 Advanced English W/RⅠ、 Advanced English W/RⅡ、 Advanced English L/SⅠ、 Advanced English L/SⅡ の4科目8単位を含め、10単位以上を修得すること ただし、外国人留学生は、当該英語科目に係る必修要件を、日本語5、日本語6、日本語7、日本語8の4科目8単位の修得をもって満たすことができる。
	クラウド活用実践	2	
	データマイニング	2	
	Webデザイン実践	2	
	メディア論	2	
	グローバル化とメディア	2	
	ソーシャルメディア論	2	
	メディアと広告	2	
	ジャーナリズム論	2	
	社会心理学	2	
	異文化コミュニケーション	2	
	プレゼンテーション実践	2	
	ディベート実践	2	
	ビジネス交渉	2	

学科	授業科目	単位	備 考
国際学科	日本経済論	2	《国際コミュニケーションコース》 10単位以上を修得すること 《グローバルキャリアコース》 30単位以上を修得すること
	世界経済論	2	
	経済政策概論	2	
	国際経済学概論	2	
	国際金融概論	2	
	比較経済論	2	
	Japanese Economy	2	
	中国経済論	2	
	東南アジア経済論	2	
	アメリカ経済論	2	
	ヨーロッパ経済論	2	
	ロシア経済論	2	
	航空経済論	2	
	Contemporary Economic Issues	2	
	経営管理概論	2	
	経営戦略論	2	
	Business Management	2	
	会計学概論	2	
	税法	2	
	国際会計論	2	
	経営情報概論	2	
	マーケティング論	2	
	流通システム論	2	
	ビジネス統計	2	
	国際経営論	2	
	外国為替論	2	
	貿易商務論	2	
	貿易金融論	2	
	国際取引と法（契約と決済）	2	
	国際取引と法（紛争処理）	2	
	国際ビジネスと知的財産	2	
	観光概論	2	
	観光資源論	2	
	国際観光論	2	
航空実務	2		
クルーズ・ビジネス論	2		
ホスピタリティ論	2		
Tourism and World Heritages	2		
医療ビジネス論	2		
基礎演習A	2	基礎演習A、基礎演習Bの2科目4単位必修	
基礎演習B	2		
専門演習ⅠA	2	海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠのいずれか1科目2単位選択必修	
専門演習ⅠB	2		
専門演習ⅡA	2		
専門演習ⅡB	2		
専門演習ⅢA	2		
専門演習ⅢB	2		
海外語学研修	2		
フィールド・プロジェクトⅠ	2		
フィールド・プロジェクトⅡ	2		
国際キャリア開発A	2		
国際キャリア開発B	2		
国際キャリアデザイン演習A	2		
国際キャリアデザイン演習B	2		
国際キャリア演習A	2		
国際キャリア演習B	2		
インターンシップ	2		
海外インターンシップ	2		

MEMO

[illegible]

2021年度 履修要項

国 際 学 部

発行日 2021年4月1日
大阪経済法科大学

〈花岡キャンパス〉

〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺 6-10
TEL 072-920-7062（教務課）
TEL 072-941-8211（代表）

〈八尾駅前キャンパス〉

〒581-8522 大阪府八尾市北本町 2-10-45
TEL 072-920-4711（代表）



大阪経済法科大学

<http://www.keiho-u.ac.jp>

〈花岡キャンパス〉

〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺6-10

TEL 072-920-7062(教務課)

TEL 072-941-8211(代表)

〈八尾駅前キャンパス〉

〒581-8522 大阪府八尾市北本町2-10-45

TEL 072-920-4711(代表)